



文教大学学園

2022 年度

事業計画書

2022 年 3 月 31 日

学校法人文教大学学園

---

---

---

## 目次

---

|                                  |    |
|----------------------------------|----|
| “教育カトップ”の学園を目指して—2022年度事業計画について— | 3  |
| <b>1. 法人の概要</b>                  |    |
| (1) 設置する学校・学部・学科等                | 4  |
| (2) 学園組織図                        | 5  |
| <b>2. 学園の中長期計画</b>               |    |
| (1) 学園の中長期計画について                 | 6  |
| <b>3. 当該年度の事業計画</b>              |    |
| (1) 学園全体                         | 11 |
| (2) 文教大学・大学院                     | 13 |
| (3) 文教大学附属中学校・高等学校               | 27 |
| (4) 文教大学附属小学校                    | 31 |
| (5) 文教大学附属幼稚園                    | 40 |
| (6) その他の施設（八ヶ岳寮）                 | 43 |
| (7) 2022年度の特異な事業内容               | 44 |
| <b>4. 当該年度予算の概要</b>              |    |
| (1) 2022年度予算基本方針                 | 45 |
| (2) 予算科目等の概要                     | 45 |
| (3) 2022年度予算総括表                  | 48 |

本事業計画書に記載している計画は、今後新型コロナウイルス感染症拡大の状況等により、変更となる可能性があります。

# “教育カトップ”の学園を目指して

—2022年度事業計画について—

文教大学学園 理事長 野島 正也

## （現在の環境）

文教大学学園は、1927年創立の「立正幼稚園」、  
「立正裁縫女学校」を端緒として、現在では学習  
する園児・児童・生徒・学生等の総数1万人を超  
える総合学園として発展し、2022年には創立95  
年を数えます。これまでの学園の発展は、ひとえ  
に関係各位のご支援の賜物であり、厚く御礼を申  
上げます。

昨今の社会情勢は、18歳人口の減少やグロー  
バル化・IT化・AIの進展等の急速な変化に加え、  
新型コロナウイルス感染症の影響により、社会経  
済活動の停滞や人々の生活様式の大きな変化が  
強いられることとなりました。このことは学校法  
人の運営にも多大な影響を及ぼし、学習者の教育  
方法や教育環境等の見直しを図ることとなりま  
した。この感染症への対応はしばらく継続するも  
のと予想しています。本学園は、そのような状況  
下においても、来る100周年に向けて、教育の質  
を一層高め、将来を見据えた優れた人材を育成し、  
学園を更に発展させてまいります。

## （学園の中期経営計画）

私立学校法改正に伴い、中期的な計画の作成が  
義務化され、各大学に持続的な発展に向けた透  
明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うための  
仕組みの確立が求められています。また、前段で  
述べた大きな社会の変化の中で、「将来の学園の  
あるべき姿、そこに到達するための道筋を主体的  
に描く工程表」の重要性が高まり、学校法人がよ  
り社会からの信頼と支援を得ていくためには、中  
期経営計画を通して、社会に対し、学園の目指す  
方向性や具体的計画等を明示することが強く求  
められています。

学園はこれまで、中期経営計画として2009  
年から学園経営戦略「第1次中期経営計画（2009  
—2012）」、「第2次中期経営計画（2013—2016）」、  
「第3次中期経営計画：文教アクションプラン

2021（2017-2020）」を3期12年間にわたり推進  
してまいりました。

第1次中期経営計画では、学園のハード（校舎  
リニューアル等）とソフト（教育力充実、組織・  
制度改革等）両面にまたがる包括的かつ大規模な  
計画を実行、第2次中期経営計画では「教育力」  
と「経営力」の抜本的な強化によるアクションプ  
ランを経営・教学の緊密な連携の下で実行、第3  
次中期経営計画では、主体を各校とし、各校が目  
標やアクションプランを策定・実行し、経営は財  
務等の面で各校を下支えする体制で実行してま  
いりました。

今般、新たな中期経営計画となる文教大学学園  
経営戦略第4次中期経営計画『BUNKYO  
ACTION PLAN 2025』を策定いたしました。新  
計画は、前計画において実施した各校の改革の実  
績を踏まえて、各校の主体性を重視し、各校にお  
ける具体的な目標や事業計画（アクションプラ  
ン）をその主体となる各校が策定・実行する計画  
の枠組みを堅持しつつも、浮かび上がった課題の  
改善や新たな取り組みを加えた計画としていま  
す。

本年度は、『BUNKYO ACTION PLAN 2025』  
の本格的な開始年度として、目標達成に向けて力  
強く発進します。より具体的には、大学だけでは  
なく附属学校も含めた学園全体における志願者  
獲得や教育力、進学実績、就業力の向上、経営に  
おける財政基盤の安定や組織ガバナンスの強化、  
各校の連携等、学園教職員一丸となって、計画を  
着実に実行してまいります。また、新型冠状ウ  
イルス感染症対策においても、万全な感染予防対  
策を講じながら、質の高い教育サービスの提供に  
努めてまいります。

引き続き、関係者の皆様方のご理解、ご支援を  
お願い申し上げます。

# 1. 法人の概要

## (1) 設置する学校・学部・学科等

| 学校・学部別                 | 学科・課程別        | 入学定員         | 収容定員 ※1              |
|------------------------|---------------|--------------|----------------------|
| <b>文教大学</b>            |               |              |                      |
| 大学院                    | 教育学研究科（修士）    | 10           | 20                   |
|                        | 人間科学研究科（博士後期） | 2            | 6                    |
|                        | 人間科学研究科（修士）   | 30           | 60                   |
|                        | 言語文化研究科（博士後期） | 2            | 6                    |
|                        | 言語文化研究科（修士）   | 10           | 20                   |
|                        | 情報学研究科（修士）    | 6            | 12                   |
|                        | 国際学研究科（修士）    | 5            | 10                   |
| 教育専攻科                  |               | 15           | 15                   |
| 教育学部                   | 学校教育課程        | 200          | 800 (850)            |
|                        | 発達教育課程        | 150          | 600 (450)            |
|                        | 心理教育課程※2      | -            | (100)                |
| 人間科学部                  | 人間科学科         | 140          | 560                  |
|                        | 臨床心理学科        | 120          | 480                  |
|                        | 心理学科          | 140          | 560                  |
| 文学部                    | 日本語日本文学科      | 120          | 480                  |
|                        | 英米語英米文学科      | 100          | 400                  |
|                        | 中国語中国文学科      | 70           | 280                  |
|                        | 外国語学科         | 70           | 280                  |
| 情報学部                   | 情報システム学科      | 95           | 380                  |
|                        | 情報社会学科        | 95           | 380                  |
|                        | メディア表現学科      | 95           | 380                  |
| 健康栄養学部                 | 管理栄養学科        | 100          | 400                  |
| 国際学部                   | 国際理解学科        | 120          | 480                  |
|                        | 国際観光学科        | 125          | 500                  |
| 経営学部                   | 経営学科          | 165          | 660                  |
| 外国人留学生別科               |               | 40           | 40                   |
| 大学 計                   |               | 2025         | 7,809 (7,809)        |
| 文教大学付属高等学校（全日制課程普通科）※3 |               | 240          | 720                  |
| 文教大学付属中学校 ※3           |               | 144          | 432                  |
| 付属中学校・高等学校 計           |               | 384          | 1,152                |
| 文教大学付属小学校              |               | 50           | 300                  |
| 文教大学付属幼稚園              |               | 60           | 180                  |
| <b>合 計</b>             |               | <b>2,519</b> | <b>9,441 (9,441)</b> |

※1 収容定員は完成年度の数。括弧内は2022年度の収容定員

※2 心理教育課程は2020年4月1日に募集停止

※3 付属高等学校及び付属中学校は募集定員

(2) 2022 年度学園組織図



## 2. 学園の中長期計画

### (1) 学園の中長期計画について

#### 1 学園経営戦略『BUNKYO ACTION PLAN 2025』の実行

文教大学学園は、中期経営計画として 2009 年から学園経営戦略「第 1 次中期経営計画（2009－2012）」、「第 2 次中期経営計画（2013－2016）」、「第 3 次中期経営計画：文教アクションプラン 2021（2017－2020）」を 3 期 12 年にわたり着実に実行してまいりました。そして、新たな中期経営計画となる「第 4 次中期経営計画：『BUNKYO ACTION PLAN 2025』（2021－2024）」を 2021 年度に策定し、2022 年度から本格的に実行してまいります。

#### ① 学園経営戦略『BUNKYO ACTION PLAN 2025』策定の背景

昨今の社会情勢は、18 歳人口の急激な減少期への突入やグローバル化・IT 化・AI の進歩等の様々な大きな変化に加え、新型コロナウイルス感染症の流行により、学校法人の運営に大きな影響を及ぼしてきました。

この教育機関を巡る環境の大きな変化によるこれまでにない他校との競争激化の中で、「将来の学園のあるべき姿、そこに到達するための道筋を主体的に描く工程表」の重要性が更に高まり、学校法人がより社会からの信頼と支援を得ていくために、中期経営計画を通して、社会に対し、学園の目指す方向性や具体的計画等を明示することが強く求められています。

#### ② 学園経営戦略『BUNKYO ACTION PLAN 2025』の実行

『BUNKYO ACTION PLAN 2025』の構造は、第 3 次において実行した「各校の改革の実質化を図るために、各校の主体性を重視し、各校における具体的な目標や事業計画（アクションプラン）を主体となる各校が策定・実行、経営は組織や財政、教育環境等の面で各校を下支えする構造」の枠組みを踏襲しながらも、浮かび上がった各種課題を改善し、より教職員が主体的に推進できる計画としています。

学園のミッションは「人間愛の教育」、長期ビジョンは「教育力トップを目指す」で、4 年後の目標は「総合学園の維持・発展：ていねいにた

くましく育てる文教を実践し、トップクラスの教育機関を実現する」、達成指標は「学習者 1 万人以上、学習者の満足度 90%以上」です。

この学園の達成指標を実現するために、各校単位で 4 年後の目標と達成指標を掲げ、カテゴリーごとに「4 年後の具体目標」を示し、「アクションプラン、具体的な取り組み内容、実施スケジュール、ワーキンググループ設置の有無、実行体制、各アクションプランの達成指標」を策定しています。詳細は次ページのビジョンマップ及びアクションプラン一覧をご覧ください。

2022 年度から本格的に実行後、毎年 1 回アクションプランの進捗や達成状況を理事会に報告し、必要があれば理事会が改善を指示する等、チェックと改善を繰り返しながら PDCA サイクルを回していきます。

学園の 4 年後の目標を達成させるべく、教職員が一体となって、計画を実行してまいります。

学園経営戦略『BUNKYO ACTION PLAN 2025』ビジョンマップ

MISSION 『人間愛』の教育 VISION 長期ビジョン ～教育力トップを目指す～

**4年後の目標** 総合学園の維持・発展  
「ていねいにたくましく育てる文教」を実践し、  
トップクラスの教育機関を実現する

**達成指標** 学習者1万人以上  
学習者の満足度90%以上

|  |  |  |   |
|--|--|--|---|
| 大学   | <p><b>4年後の目標</b> 学生が成長を実感できる大学</p> <p><b>達成指標</b> ● 学生生活の満足度向上、<br/>実志願者数7,000人の確保</p>   |  |   |
|  | <p><b>アクションプラン</b></p> <table border="0"> <tr> <td> <p><b>重点事業</b><br/>大学認知度の向上とアイデンティティの醸成</p> <p><b>学生募集</b><br/>志願者・入学者の安定的な確保</p> <p><b>教育</b><br/>質の高い教育の実施</p> </td> <td> <p><b>研究</b><br/>研究体制の充実</p> <p><b>学生支援</b><br/>充実した学生生活の提供</p> <p><b>付属学校</b><br/>総合学園としての発展</p> </td> <td> <p><b>地域社会貢献</b><br/>大学と地域との連携による学内の活性化</p> <p><b>国際交流</b><br/>国際交流の活性化</p> </td> </tr> </table>  | <p><b>重点事業</b><br/>大学認知度の向上とアイデンティティの醸成</p> <p><b>学生募集</b><br/>志願者・入学者の安定的な確保</p> <p><b>教育</b><br/>質の高い教育の実施</p>   | <p><b>研究</b><br/>研究体制の充実</p> <p><b>学生支援</b><br/>充実した学生生活の提供</p> <p><b>付属学校</b><br/>総合学園としての発展</p>   |
| <p><b>重点事業</b><br/>大学認知度の向上とアイデンティティの醸成</p> <p><b>学生募集</b><br/>志願者・入学者の安定的な確保</p> <p><b>教育</b><br/>質の高い教育の実施</p>   | <p><b>研究</b><br/>研究体制の充実</p> <p><b>学生支援</b><br/>充実した学生生活の提供</p> <p><b>付属学校</b><br/>総合学園としての発展</p>  | <p><b>地域社会貢献</b><br/>大学と地域との連携による学内の活性化</p> <p><b>国際交流</b><br/>国際交流の活性化</p>  |   |
| 中学校・高等学校   | <p><b>4年後の目標</b> 『人間愛』の精神を育み、<br/>グローバルな社会・ボーダレスな<br/>社会で活躍できる人間の育成</p> <p><b>達成指標</b> ● 生徒・保護者の本校への<br/>入学満足度90%の達成<br/>● 難関大学合格者130人以上の達成</p>  |  |   |
|  | <p><b>アクションプラン</b></p> <table border="0"> <tr> <td> <p><b>募集・広報</b><br/>入学者の質と量の確保</p> <p><b>教育</b><br/>生徒の学力向上</p> <p><b>研究</b><br/>教員の指導力向上</p> </td> <td> <p><b>生徒生活</b><br/>礼儀と規律ある生徒の育成</p> <p><b>進路・キャリア</b><br/>更なる進学実績の向上</p> <p><b>地域・社会連携</b><br/>『人間愛』の精神の育成</p> </td> <td> <p><b>国際交流</b><br/>海外研修プログラムの推進</p> </td> </tr> </table>  | <p><b>募集・広報</b><br/>入学者の質と量の確保</p> <p><b>教育</b><br/>生徒の学力向上</p> <p><b>研究</b><br/>教員の指導力向上</p>  | <p><b>生徒生活</b><br/>礼儀と規律ある生徒の育成</p> <p><b>進路・キャリア</b><br/>更なる進学実績の向上</p> <p><b>地域・社会連携</b><br/>『人間愛』の精神の育成</p>  |
| <p><b>募集・広報</b><br/>入学者の質と量の確保</p> <p><b>教育</b><br/>生徒の学力向上</p> <p><b>研究</b><br/>教員の指導力向上</p>  | <p><b>生徒生活</b><br/>礼儀と規律ある生徒の育成</p> <p><b>進路・キャリア</b><br/>更なる進学実績の向上</p> <p><b>地域・社会連携</b><br/>『人間愛』の精神の育成</p>   | <p><b>国際交流</b><br/>海外研修プログラムの推進</p>  |   |
| 小学校  | <p><b>4年後の目標</b> 「ふるさとのような学校」において<br/>世界に羽ばたく国際人の育成</p> <p><b>達成指標</b> ● 倍率3倍以上の安定した志願者の確保<br/>● 在校生並びに保護者の満足度<br/>90%以上の達成</p>  |  |   |
|  | <p><b>アクションプラン</b></p> <table border="0"> <tr> <td> <p><b>募集・広報</b><br/>倍率3倍以上の安定した志願者の確保</p> <p><b>教育</b><br/>Society5.0時代を生き抜く人材育成<br/>21世紀型スキルとしてのSTEAM 教育の推進</p> <p><b>研究</b><br/>1時間ごとに成長できる学校「深い学び」の推進<br/>文教大学付属小学校型アクティブラーニングの確立</p> </td> <td> <p><b>児童生活</b><br/>人間愛あふれる「文教っ子八か条」に基づく<br/>豊かな教育の実践と推進</p> <p><b>進路指導</b><br/>一人ひとりの夢を実現させる進路指導</p> <p><b>保護者・社会連携</b><br/>学校教育と家庭教育の連携<br/>地域に貢献し地域に愛される私立小学校としての確立</p> </td> <td> <p><b>国際交流</b><br/>オーストラリア短期留学の充実<br/>外国語教育の充実</p> </td> </tr> </table> | <p><b>募集・広報</b><br/>倍率3倍以上の安定した志願者の確保</p> <p><b>教育</b><br/>Society5.0時代を生き抜く人材育成<br/>21世紀型スキルとしてのSTEAM 教育の推進</p> <p><b>研究</b><br/>1時間ごとに成長できる学校「深い学び」の推進<br/>文教大学付属小学校型アクティブラーニングの確立</p> | <p><b>児童生活</b><br/>人間愛あふれる「文教っ子八か条」に基づく<br/>豊かな教育の実践と推進</p> <p><b>進路指導</b><br/>一人ひとりの夢を実現させる進路指導</p> <p><b>保護者・社会連携</b><br/>学校教育と家庭教育の連携<br/>地域に貢献し地域に愛される私立小学校としての確立</p> |
| <p><b>募集・広報</b><br/>倍率3倍以上の安定した志願者の確保</p> <p><b>教育</b><br/>Society5.0時代を生き抜く人材育成<br/>21世紀型スキルとしてのSTEAM 教育の推進</p> <p><b>研究</b><br/>1時間ごとに成長できる学校「深い学び」の推進<br/>文教大学付属小学校型アクティブラーニングの確立</p> | <p><b>児童生活</b><br/>人間愛あふれる「文教っ子八か条」に基づく<br/>豊かな教育の実践と推進</p> <p><b>進路指導</b><br/>一人ひとりの夢を実現させる進路指導</p> <p><b>保護者・社会連携</b><br/>学校教育と家庭教育の連携<br/>地域に貢献し地域に愛される私立小学校としての確立</p>  | <p><b>国際交流</b><br/>オーストラリア短期留学の充実<br/>外国語教育の充実</p>   |   |
| 幼稚園  | <p><b>4年後の目標</b> 満足度が高い選ばれる幼稚園</p> <p><b>達成指標</b> ● 募集定員60人の安定確保</p>   |  |   |
|  | <p><b>アクションプラン</b></p> <table border="0"> <tr> <td> <p><b>募集・広報</b><br/>安定した入園者の確保</p> <p><b>教育</b><br/>素直で明るい元気な子どもの育成</p> <p><b>研究</b><br/>新幼稚園教育要領に則したカリキュラム作り</p> </td> <td> <p><b>園児生活</b><br/>遊びを通して“生きる力の素”を育む</p> <p><b>進路支援</b><br/>付属小学校及び希望する小学校への進学実現</p> <p><b>保護者・地域連携</b><br/>保護者との連携強化・地域に根ざした幼稚園の確立</p> </td> </tr> </table>  | <p><b>募集・広報</b><br/>安定した入園者の確保</p> <p><b>教育</b><br/>素直で明るい元気な子どもの育成</p> <p><b>研究</b><br/>新幼稚園教育要領に則したカリキュラム作り</p>  | <p><b>園児生活</b><br/>遊びを通して“生きる力の素”を育む</p> <p><b>進路支援</b><br/>付属小学校及び希望する小学校への進学実現</p> <p><b>保護者・地域連携</b><br/>保護者との連携強化・地域に根ざした幼稚園の確立</p>                                   |
| <p><b>募集・広報</b><br/>安定した入園者の確保</p> <p><b>教育</b><br/>素直で明るい元気な子どもの育成</p> <p><b>研究</b><br/>新幼稚園教育要領に則したカリキュラム作り</p>  | <p><b>園児生活</b><br/>遊びを通して“生きる力の素”を育む</p> <p><b>進路支援</b><br/>付属小学校及び希望する小学校への進学実現</p> <p><b>保護者・地域連携</b><br/>保護者との連携強化・地域に根ざした幼稚園の確立</p>  |  |   |

**経営・管理**

**アクションプラン**

|   |  |
|---|--|
| <p><b>組織</b><br/>変化に対応できる組織力の強化</p> <p><b>財政</b><br/>強固な財政基盤の確立</p> | <p><b>教育環境</b><br/>競争力を持った教育環境の整備</p> <p><b>学園ブランド</b><br/>学園ブランドの強化</p> |
|---|--|

| 大学     |                       |      |   |
|--------|-----------------------|------|---|
| カテゴリー  | 4年後の具体目標              | No.  | アクションプラン  |
| 重点事業   | ●大学認知度の向上とアイデンティティの醸成 | A101 | SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) の普及と推進 |
|        |                       | A102 | バーチャルミュージアム「(仮称) 文教 Museum」の立ち上げ                        |
| 学生募集   | ●志願者・入学者の安定的な確保       | A103 | 今後の学生募集対策の検討  |
|        |                       | A104 | データ活用による入試戦略の構築   |
| 教育     | ●質の高い教育の実施            | A105 | 留年者数及び退学者数の抑制   |
|        |                       | A106 | 教育質保証の確立  |
|        |                       | A107 | IR (Institutional Research) 実施体制の確立                     |
| 研究     | ●研究体制の充実              | A108 | 外部資金獲得の支援体制の強化  |
|        |                       | A109 | 大学院の充実  |
|        |                       | A110 | 学部・研究科の枠を超えた研究の支援                                       |
| 学生支援   | ●充実した学生生活の提供          | A111 | 新たな奨学金制度の創設の検討  |
|        |                       | A112 | キャンパスの活性化   |
|        |                       | A113 | 3キャンパス間の連携  |
|        |                       | A114 | キャリア支援の更なる充実  |
| 付属学校   | ●総合学園としての発展           | A115 | 付属学校との関係性強化   |
| 地域社会貢献 | ●大学と地域との連携による学内の活性化   | A116 | 社会連携活動の強化   |
|        |                       | A117 | 高校との連携強化 (高大連携)   |
| 国際交流   | ●国際交流の活性化             | A118 | 学生の留学支援体制の充実  |
|        |                       | A119 | 外国人留学生の受入れ体制の充実   |

| 中学校・高等学校 |               |      |                          |
|----------|---------------|------|--------------------------|
| カテゴリー    | 4年後の具体目標      | No.  | アクションプラン                 |
| 募集・広報    | ●入学者の質と量の確保   | B101 | 募集広報活動の強化                |
| 教育       | ●生徒の学力向上      | B102 | ICT を活用した効果的な授業の実施       |
|          |               | B103 | グローバルコンピテンスプログラムの導入      |
|          |               | B104 | 模試偏差値の向上                 |
|          |               | B105 | 各種検定の取得の推進               |
| 研究       | ●教員の指導力向上     | B106 | 校内研修の充実                  |
|          |               | B107 | 外部への研修の積極的参加             |
| 生徒生活     | ●礼儀と規律ある生徒の育成 | B108 | 挨拶・言葉遣い、マナーの育成           |
|          |               | B109 | 基本的な生活習慣の確立              |
|          |               | B110 | 心を育てる学校行事の実施             |
| 進路・キャリア  | ●更なる進学実績の向上   | B111 | 「文教キャリア教育プログラム」の実施       |
|          |               | B112 | 進路行事・キャリアガイダンスの強化・大学との連携 |
|          |               | B113 | 難関校合格者数の向上               |
| 地域・社会連携  | ●『人間愛』の精神の育成  | B114 | 生徒の自治的生徒会活動の推進           |
|          |               | B115 | 『人間愛』精神の育成               |
|          |               | B116 | ボランティア活動の奨励              |
| 国際交流     | ●海外研修プログラムの推進 | B117 | 留学・語学研修プログラムの継続と新規開拓     |
|          |               | B118 | 希望者によるオンライン外国語講座の実施      |



| 小学校      |   |      |   |
|----------|---|------|---|
| カテゴリー    | 4年後の具体目標  | No.  | アクションプラン  |
| 募集・広報    | ●倍率 3 倍以上の安定した志願者の確保                                  | C101 | 顕在層（学校説明会や幼児教室訪問で出会える層）からの志願者の拡大                      |
|          |   | C102 | 潜在層（受験しようか迷っている層・受験は考えていないが私立小学校に入れることが可能な層）からの志願者の拡大 |
|          |   | C103 | 外部への発信力の強化  |
| 教育       | ●Society5.0 時代を生き抜く人材育成<br>●21 世紀型スキルとしての STEAM 教育の推進 | C104 | 確かな学力の伸長  |
|          |   | C105 | グローバルな人材の育成   |
|          |   | C106 | ICT 教育の推進   |
|          |   | C107 | 「21 世紀型スキル」の育成：STEAM 教育の推進                            |
| 研究       | ●1 時間ごとに成長できる学校「深い学び」の推進<br>●文教大学付属小学校型アクティブラーニングの確立  | C108 | 魅力的な授業創り・授業力の向上                                       |
|          |   | C109 | 教員研修の充実   |
| 児童生活     | ●人間愛あふれる「文教っ子八か条」に基づく豊かな教育の実践と推進                      | C110 | 児童による挨拶運動の励行  |
|          |   | C111 | 「文教っ子八か条」の徹底  |
|          |   | C112 | 体験活動の充実   |
| 進路指導     | ●一人ひとりの夢を実現させる進路指導                                    | C113 | 一人ひとりへのきめ細やかな充実した進路指導                                 |
|          |   | C114 | 付属幼稚園、付属中学高等学校との連携                                    |
|          |   | C115 | 文教大学との連携  |
| 保護者・社会連携 | ●学校教育と家庭教育の連携<br>●地域に貢献し地域に愛される私立小学校としての確立            | C116 | 教育懇談会・個別面談の充実   |
|          |   | C117 | 学校と保護者を結ぶ学校だより、学年だよりの充実 ホームページの充実                     |
|          |   | C118 | 学校周辺地域・東急池上線へのボランティア活動                                |
| 国際交流     | ●オーストラリア短期留学の充実<br>●外国語教育の充実                          | C119 | オーストラリア短期留学の充実  |
|          |   | C120 | 諸外国との交流の推進  |

| 幼稚園      |                          |      |                                |
|----------|--------------------------|------|--------------------------------|
| カテゴリー    | 4年後の具体目標                 | No.  | アクションプラン                       |
| 募集・広報    | ●安定した入園者の確保              | D101 | プレスクールの充実（入園審査対象）              |
|          |                          | D102 | ぶんぶん広場の充実（入園対象外の0歳児～2歳児）       |
|          |                          | D103 | 幼稚園説明会の実施・参加                   |
|          |                          | D104 | ホームページ強化                       |
|          |                          | D105 | 募集に係る媒体誌・広告関連の充実               |
| 教育       | ●素直で明るい元気な子どもの育成         | D106 | “文教スタイル”の確立                    |
|          |                          | D107 | “学ぶ、をあそぼう。”の実践                 |
|          |                          | D108 | 生きる力の土台を広げる「遊び」「運動」「行事」「生活」の充実 |
| 研究       | ●新幼稚園教育要領に則したカリキュラム作り    | D109 | 指導力の向上                         |
|          |                          | D110 | 勉強会の実施                         |
|          |                          | D111 | 少子化と共働き家庭の増加に対する幼稚園の将来展望の検討    |
| 園児生活     | ●遊びを通して“生きる力の素”を育む       | D112 | 挨拶や食事のマナー、手洗い・うがい等、基本的な生活習慣の習得 |
|          |                          | D113 | 動植物と触れ合う機会を増やす                 |
|          |                          | D114 | 保護者との「園児の成長のストーリー」の共有          |
| 進路支援     | ●付属小学校及び希望する小学校への進学実現    | D115 | 付属小学校との連携                      |
|          |                          | D116 | 公立小学校スタートカリキュラムとの連携            |
|          |                          | D117 | 「文教幼児教室」の定着化                   |
| 保護者・地域連携 | ●保護者との連携強化・地域に根ざした幼稚園の確立 | D118 | 幼稚園が「求める家庭・保護者」の明確化            |
|          |                          | D119 | 保護者との連携強化の取り組み                 |
|          |                          | D120 | 地域や家庭のニーズの把握とそれに応える方策の検討       |

| 経営・管理  |                 |      |                    |
|--------|-----------------|------|--------------------|
| カテゴリー  | 4年後の具体目標        | No.  | アクションプラン           |
| 組織     | ●変化に対応できる組織力の強化 | K101 | 教学と経営の連携強化         |
|        |                 | K102 | 学園内の連携強化           |
|        |                 | K103 | リスク管理体制の再構築        |
| 財政     | ●強固な財政基盤の確立     | K104 | 学園財政の徹底管理          |
|        |                 | K105 | 学習者の安定的確保          |
|        |                 | K106 | 補助金の安定的確保          |
|        |                 | K107 | 寄附金事業の推進           |
|        |                 | K108 | 経費の検討と変更           |
| 教育環境   | ●競争力を持った教育環境の整備 | K109 | 長期施設改善計画の策定        |
|        |                 | K110 | 2学部移転後の湘南キャンパスの最適化 |
|        |                 | K111 | 湘南キャンパス活用方法の検討     |
| 学園ブランド | ●学園ブランドの強化      | K112 | 学内者への学園理解の再構築      |
|        |                 | K113 | 卒業生との更なる連携・絆の強化    |

### 3. 当該年度の事業計画

#### (1) 学園全体

##### 1 当該年度の学園全体の取り組み（事業計画）

###### ① 寄附金事業の推進

2018年度に募集を開始した、文教大学学園の各校（大学、高等学校、中学校、小学校、幼稚園）の就学支援・教育振興等に資することを目的とした恒常的な寄附制度「文教サポーターズ募金」においては、各校の教育研究環境整備を行ったことに加えて、2020年度から新型コロナウイルス感染症拡大の影響により困窮している学生への支援にも充ててきました。

2022年度も引き続き、在学生の保護者や学園の卒業生等へ募集を行い、各校が実施する教育研究環境の整備や教育活動の奨励等のために、更に推進してまいります。また、ホームページを随時更新し、寄附の現状を発信することにより、寄附金事業への理解促進を図り、強固な寄附金募集体制の確立を目指します。

###### ② リスク管理対応体制の強化事業

今後予測される大規模地震が発生した際の危機管理対応力強化のために策定した、大規模地震対応マニュアル（2012年完成、事業継続計画を含む）の内容の周知やマニュアルに沿った各種訓練（本部支部設置、救出救護、要員参集等）と、災害備品・備蓄品の整備・拡充を継続して行います。

2022年度は、大規模地震対応マニュアルの周知訓練及び非常時を想定し、ハザードトークを利用した連絡訓練を行います。また、災害備蓄品の整備については、消費期限切れの備蓄品（保存水、保存食等）の入替えを中心に継続実施します。

###### ③ 校友活動の推進

2022年度は、文教大学学園校友会報『あや

なり』第9号の発行と、ホームページによる情報発信を通して、学園の現状理解の促進、愛校心の醸成、並びに校友との連携強化に努めます。また、学園卒業生名簿データの整備、管理も推進します。

併せて、学園が企画する行事・イベント等の機会提供により、学園と各校友団体・校友との交流の活性化を図り、各校友団体の企画した校友交流活動に対して後援することにより、学園のブランド力を向上させ、学園の維持発展への寄与を目指します。

###### ④ 戦略的広報活動の展開

大学の学生募集力を強化することを目的に、高校訪問を実施します。

一般選抜に向けた高校訪問及び地方の指定校訪問を実施します。訪問に当たっては、関東を中心とした部分と地方の指定校を範囲とし、重点事項やトピックスを紹介し、2023年度入試に向けて効果的な情報発信を行います。

また、東京あだちキャンパスの認知度向上と通学可能範囲の高校へのアプローチとして高校訪問を実施し、東京あだちキャンパスの紹介と学び（国際学部と経営学部）について情報発信を行います。

###### ⑤ 越谷キャンパス新棟建設工事

2022年度に越谷キャンパスに教室棟を新たに建築し、「新たな教育の展開」及び「授業運営の支障緩和」を図ることを目的として、「(仮称)文教大学越谷キャンパス新棟建設工事」を2020年度から3年間計画で実施しています。

2022年7月上旬には、越谷キャンパス新棟の全体竣工を迎える予定で、2022年の秋学期

からの利用に向けて設備保守等の準備も併せて実施します。

新棟の開設により、教育環境・校内環境が一新され、学生・教職員間のコミュニケーションを強化する集いの空間を創出します。

#### ⑥ 越谷キャンパス再開発計画

『BUNKYO ACTION PLAN 2025』では、「競争力を持った教育環境の整備」として、越谷キャンパス新棟の建設及び耐震診断結果を踏まえた再開発計画を進めています。

越谷キャンパス再開発の基本計画策定と教育環境整備に必要な条件についての検討・検証を行い、開発要件等諸条件を整理するために越谷市等行政機関への確認、相談を行います。

#### ⑦ 湘南キャンパス建物外壁調査及び改修工事

湘南キャンパスの建物の大半は、タイル張りの仕様になっており、特定建築物定期調査の定期報告にて外壁全面調査が必要となります。

2022年度については、学生が歩行する箇所を最優先に建物の調査及び改修工事を行います。施工期間は授業への影響が少ない夏期休暇中を予定しています。

## (2) 文教大学・大学院

### 1 文教大学のポリシー

#### 1. 文教大学の理念 - 人間愛の教育

人間愛とは、人間性の絶対的尊厳とその無限の発展性を確信し、すべての人間を信じ、尊重し、あたたかく慈しみ、優しく思いやり、育むことです。文教大学は、人間愛の教育を実践します。

人間愛の教育とは、教員と学生、また学生と学生との関係を重視し、学生一人ひとりの個性を丁寧に伸ばすことを目指し、人間愛を持って学生を教育することです。その教育を通して、人間を信頼し全ての人に対して温かい愛情を持つ人材を育てることを目標とします。

#### 2. 各学部、研究科の教育研究上の目的

文教大学の教育・研究は、「人」を共通のキーワードとした総合的学問領域に対応しています。人間に直接関わる課題、現代社会が抱える様々な問題に関する専門的知識やスキルを有する専門家、スペシャリストを養成します。

| 学部    | 学科・課程  | 教育研究上の目的   |
|-------|--------|--|
| 教育学部  |        | 教育学部は、本学の建学精神に則って、有為な教育者を育成することを目的とする。   |
|       | 学校教育課程 | 学校教育に関する知識と技術を基盤とする教育及び研究を行い、現代社会の中で使命感と情熱を持って主体的に学び続け、教育を創造する資質と能力を備えた学校教員を養成する。                      |
|       | 発達教育課程 | 教育学・保育学、心理学に関する知識と技能を基盤とする教育及び研究を行い、乳幼児期から児童期・青年期に至るまでの発達の連続性と多様性を踏まえ、心身の連関と人間形成の基盤の育成を担う教育者を養成する。     |
| 人間科学部 |        | 人間科学部は、本学の建学精神に則って、人間の総合的な理解と人間生活の向上に必要な理論的、実践的知識と技術を涵養することを目的とする。                                     |
|       | 人間科学科  | 現代文化、人間教育、社会福祉の3領域を教育及び研究の幹とし、人間性の総合的理解を通じ、教員や福祉の専門家を始めとして、人間社会に対する深い実践力・洞察力を持った幅広い分野で活躍できる人材を養成する。    |
|       | 臨床心理学科 | 心理学の応用・実践分野として、家庭、学校、医療、福祉、司法、産業及び地域社会の諸問題へのアプローチを含む広義の臨床心理学を探究し、現代社会が直面している心のケアに関する専門的な援助ができる人材を養成する。 |
|       | 心理学科   | 人間の科学的・客観的理解を目的として、基礎心理学並びに応用心理学である健康心理学・ビジネス心理学に関する教育及び研究を行い、実践場面に適用できる人材を養成する。                       |

|        |  |  |
|--------|--|--|
| 文学部    | 文学部は、本学の建学精神に則って、文学及び語学を通して、日本及び世界の文化に関する知識と技術を涵養することを目的とする。   |  |
|        | 日本語日本文学科   | 日本語・日本文学を通して日本文化の教育及び研究を行うとともに、日本語の高度な運用能力を身につけて、広く社会に貢献できる人材を養成する。  |
|        | 英米語英米文学科   | 英米語・英米文学を通して英語圏文化の教育及び研究を行うとともに、英語コミュニケーション能力を身につけて、広く社会に貢献できる人材を養成する。   |
|        | 中国語中国文学科   | 中国語・中国文学を通して中国語圏文化の教育及び研究を行うとともに、中国語コミュニケーション能力を身につけて、広く社会に貢献できる人材を養成する。   |
|        | 外国語学科  | 高い英語運用能力を修得するとともに、多言語多文化に対する理解と対応力を養うため、英語以外のもう一つの外国語運用能力を身につけて、言語バリアを越えて広く社会に貢献できる人材を養成する。                                |
| 情報学部   | 情報学部は、本学の建学精神に則って、情報の総合的な理解と社会生活における情報の効果的利用に必要な理論的、実践的知識と技術を涵養することを目的とする。                                       |  |
|        | 情報システム学科   | 情報システムに関して、基礎から応用にいたる多面的、総合的な方法論を身につけ、新たな情報システムの創成を通じて、人間を中心とした情報社会の発展に貢献できる高度職業人を養成する。                                    |
|        | 情報社会学科   | 情報化によってもたらされた利害を認識し、現代社会における人と社会の要求を的確に把握する力を養成するための多面的、総合的な方法論を身につけ、情報社会に基礎を置く諸活動の創成を通じて、人間を中心とした情報社会の発展に貢献できる高度職業人を養成する。 |
|        | メディア表現学科   | メディア環境のグローバルな変化に対応すべく、人間の社会的なメッセージの伝達過程およびメディア文化に関する総合的な理解を深め、情報を創出・伝達・分析するための方法論を身につけ、人間を中心とした情報社会の発展に貢献できる高度職業人を養成する。    |
| 健康栄養学部 | 健康栄養学部は、本学の建学精神に則って、健康科学と栄養科学を通して、現代社会における生活習慣病等の基礎知識を理解し、予防医学の観点から健康の維持・増進に寄与するために必要な理論的、実践的知識と技術を涵養することを目的とする。 |  |
|        | 管理栄養学科   | 管理栄養士としての力とコミュニケーション力を兼ね備えた、予防医学を担う栄養の専門家としての「ココロとカラダの健康を育む管理栄養士」を養成する。  |
| 国際学部   | 国際学部は、本学の建学精神に則って、国際社会を学術的、実践的に理解し、もって人間生活と国際化社会の向上発展に必要な理論的、実践的知識と技術を涵養することを目的とする。                              |  |
|        | 国際理解学科   | コミュニケーション能力を身につけ、国際社会に関する知識と理解力を有する地球市民として、NGO や NPO、学校教育及び産業界における国際交流、国際協力、環境問題対策などの領域で社会に貢献できる人材を養成する。                   |
|        | 国際観光学科   | 社会科学を基盤に、ビジネス及び地域づくりとしての観光に関する教育及び研究を行う。グローバルかつローカルな視野と問題解決能力を培うことによって、国際観光領域で活躍できる人材を養成する。                                |

|      |  |
|------|--|
| 経営学部 | 経営学部は、本学の建学精神に則って、豊かな教養を育み、人間を尊重する経営の重要性を理解し実践する総合的知識と技術を涵養することを目的とする。   |
|      | 経営学科<br>社会のより良き一員として生きていくための基礎能力を修養し、そのうえで、経営資源に関する多面的な理解と経営で出現する情報を扱う科学的な技術、そして人を活かす考え方と手法を学び、それらを総合的に活用して、産業界から行政にいたる幅の広い分野・職種で活躍できる人材を養成する。 |

| 研究科・専攻            | 教育研究上の目的   |
|-------------------|--|
| 教育学研究科<br>学校教育専攻  | 教育学、心理学、各教科指導法などの領域における高度に理論的な教育・研究とともに、各領域間の連携を深めつつ、学校教育を包含したより広い教育のあり方について考究することができる人材を養成すること。   |
| 人間科学研究科           | 人間科学を構成する諸学問の知見を踏まえ、人間の心理と社会に関する総合的な理解及び学術性や実践性を備えた研究等を通じて、心の健康や人間性などに関して幅広い見識と高度の専門的能力を身につけた人材を養成すること。  |
| 臨床心理学専攻           | 修士課程においては、心理学及び臨床心理学の学識を身につけるとともに、臨床体験によって習得した臨床技能及び臨床を踏まえた研究を通じて、高い専門性と豊かな人間性を備えた心理臨床家を養成すること。博士後期課程においては、一層高度の研究・学識・技能を通じて、臨床心理学領域における自立した研究者及び心理臨床家の指導ができる高度専門職業人を養成すること。 |
| 人間科学専攻            | 心理学・社会学・教育学・社会福祉学などの学際的・総合的知見を基礎とし、研究・実践を通じて、人間と社会に関する幅広い見識と、諸課題解決に対する高い専門性を持つ社会に貢献できる人材を養成すること。   |
| 言語文化研究科<br>言語文化専攻 | 言語及び言語文化に関する基礎理論の修得を基盤に、各地域の言語・文学（上演芸術を含む）・文化に対する専門的な理解を通して、広く異文化間に架橋できる高度な専門的職業人を養成し、また第二言語に対する先端的な言語能力の修得と研究により、国際的な言語教育の分野において指導的な役割を果たす人材を養成すること。                        |
| 情報学研究科<br>情報学専攻   | 情報システム及び情報コンテンツの分野について、システムに関する知識を有し、システムの能力を十分に活用できる能力、及び活用に関するニーズを情報システムの構築に反映できる能力を併せ持つ人材を養成すること。   |
| 国際学研究科<br>国際学専攻   | 社会、政治、経済、文化、コミュニケーションなどの知識を基礎に、国際協力、市民社会、観光などの領域での専門的知識や実務的技術を通じて、“Think globally, act locally” に実践できる高度専門職業人を養成すること。  |

### 3. 文教大学のカリキュラムの特徴・特色

1. 幅広い教養の育成と専門領域の深化を目標とした教育課程を編成しています。
2. 教員と学生の対話を重視し、ゼミ等の少人数教育を重視した教育課程を展開しています。
3. 学部ごとに、その領域にふさわしい個性ある学外・海外実習プログラムを用意しています。

#### 4. 文教大学が求める学生

文教大学は、次のような学生の入学を期待しています。

1. 人間愛の教育に対する理解と共感を有する人
2. 志望する学部の特長分野に対する関心と学ぼうとする意欲を持っている人
3. 志望する学部で学ぶにあたり必要な一定の学力を有する人

## 2 当該年度の教育目標

建学の精神である「人間愛」を基盤に、人と人との絆を大切にしながら社会に貢献できる人材を輩出するべく、入学時の初年次教育から卒業時の卒業研究等に至る4年間を通じて、全ての学生に目が届くきめ細かい教育を行います。また、引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、本学の教育課程を実行します。

## 3 当該年度の教育活動計画

### ① 新型コロナウイルス感染症対策と教育課程の実行と充実

新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで、本学の教育課程を着実に実行します。また、対面形式の授業とオンライン形式による授業を効果的に併用し、更なる充実を図ります。

### ② 入学前教育

総合型選抜及び学校推薦型選抜の候補者を対象に、2015年度から全学部で実施している入学前教育を引き続き実施します。

### ③ 初年次教育

学部学科等で開設している初年次教育を更に充実させるため、基礎的なアカデミック・スキルを身につけるための授業内容の検討を進めます。また全学部に通じたプログラムの検討を継続します。

### ④ カリキュラムの検証・体系化の検討

定期的なカリキュラムの点検を行うことによって、常に効果的な学修が行われるよう、引き続き、整備に努めます。

### ⑤ 担任制度とオフィスアワー制度

担任制度やオフィスアワー制度等学生が相談しやすい環境を作り、各学部の教員と担当事務局や学生支援室が相互に連携しながら、引き続き学生支援体制の充実を図ります。

### ⑥ キャリア形成支援

正課内に留まらず、全学的に学生のキャリア形成を支援する体制を構築します。学生のご様な進路希望に応じて、4年間を通じてどのような指導・支援が学内で提供されているかを示すキャリア形成マップの作成を継続して行います。

### ⑦ 国際交流事業の推進

各学部、研究科等と国際交流センターで連携し留学プログラムを実施します。新型コロナウイルス感染症の流行の状況を鑑み、海外渡航の安全に配慮しながら協定校派遣留学等、徐々に海外渡航を伴うプログラムを再開します。依然として、渡航が困難な状況にあることも予想されるため、海外教育機関等とのオンラインによる海外交流プログラムを実施し、学生の国際交流を通じた学修の機会が確保されるよう努め、より多くの学生が多様な体験に積極的に取り組むことができる環境を提供します。



## ⑧ 第3期認証評価に向けた対応

公益財団法人大学基準協会へ大学機関別認証評価の申請をします。

## ⑨ 各学部における取り組み

各学部での特徴的な取り組みは次のとおりです。

### ア. 教育学部

- 1) 教員・教育関係職に就く卒業生のネットワークづくりの取り組みとして「文教大学教育フォーラム」を開催します。
- 2) アメリカ・メリーランド州の小学校・中学校での英語による教育実習体験を通して、アメリカの教育制度や文化を学ぶ「アメリカ学校教育研修」を実施します。
- 3) 英語指導者を志望する学生向けに国際コミュニケーション能力を高めるための海外研修として、アメリカ・ハワイ大学での2週間のインターンシップ/サービス・ラーニング（パイロットプログラム）を実施します。
- 4) 越谷市教育委員会との連携による「先生の助手」体験プログラムを実施します。
- 5) 2020年4月から、学校教育課程と新たに設置した発達教育課程の2課程で新生教育学部をスタートしました。広報活動を積極的に行い、本学の教育学部が目指す方向性、教育内容、さらに取得可能な免許・資格の周知を図ります。

\*上記 1) ～ 3) については、新型コロナウイルス感染症の流行状況により、オンライン授業等に変更となる可能性もあります。

### イ. 人間科学部

- 1) 学生の自己理解・企業理解、自己表現の力を高めるための「スペシャル就活ゼミ」を行います。過去10年間の実績を踏まえつつ、2021年度からサポートの開始時期を従来の3年生の秋学期から3年生の春学期に前倒しして就活の早期化の流れに対応しました。2022年度もこれを継続します。
- 2) 社会福祉士及び精神保健福祉士の国家資格取得希望者を支援するための受験対策講座を行います。
- 3) 情報提供型の進路支援として就職活動体験レポート『先輩からのメッセージ～夢をつかもう～』を発行します。
- 4) 2017年度に新たに制定された国家資格「公認心理師」資格を取得するための大学における指定カリキュラムを提供し、資格取得を目指す学生を支援します。

### ウ. 文学部

- 1) 学生の基礎力向上及び就職活動の一助として、自身のジェネリックスキル（特定の専門分野に関係なく、社会において全ての人に求められる能力で、コミュニケーションスキルや論理的思考力等）を把握するためのPROG（Progress Report of Generic Skills）テストを全学科の1年生を対象に実施する予定です。
- 2) 海外協定校への留学に結び付ける試みとして、留学意欲の高い学生に対し留学申請時にスコアが必要なTOEFLやその他の語学検定試験の受験費用を補助する支援を行います。
- 3) 就職支援として、就職活動体験談冊子『就職への道』を発行します。また、日本語教員養成コースの体験報告会「日本語教員への道」、教員採用試験合格者の体験報告会（各学科）及び中高国語教員志望者向け教育実習研究交流会（日本語日本文学科）を開催します。
- 4) 外国語学科では2年次春学期科目として「1セメスター留学」を実施しています。これは、2年生全員が、北米・ヨーロッパ・オセアニア・アジアの8校の海外提携教育機関に分か

れて英語研修を行うものですが、新型コロナウイルス感染症が継続して流行している場合には、海外提携機関のオンライン授業及び日本校でのスクーリング等の組み合わせによる代替プログラムでの履修を行います。

- 5) 協定校である北京外国語大学で開催予定の国際シンポジウム（協定校の韓国外国語大学校を始め、中国・韓国その他海外の研究者も多く参加する）に参加します。また、フランスに新たな協定先を開拓します。

#### エ. 情報学部

- 1) 初年次教育として、メディア表現学科では「文章演習」によって、アカデミック・ライティングの基礎を習得する機会を用意しています。具体的には、表記・用語・文章構成やアウトラインの作り方、さらには執筆のための素材を集めるための情報探索法を学びます。発展として、図書や新聞・雑誌記事を読み込んだうえで、時事的なテーマについての小論文も作成します。そのような取り組みを通し、学生に明瞭かつ論理的な文章を書く能力を身に付けさせ、学部で学んでいくための基礎技能を定着させます。
- 2) ベトナムとモンゴルの提携校で実習等を行う「海外研修A・B」や、各校からの学生・教員の招聘、ベトナム・FPT大学からの交換留学生受入れ等により、本学部生と海外の学生との交流を促進し、グローバル化への視野を開く機会を積極的に提供します。
- 3) 学生による学修成果物を東京ゲームショウやデジタルコンテンツEXPO等、外部の展示会に出展し、産業界との連携を図るとともに、学生のキャリア支援を行います。
- 4) 自身の所属する学科以外の「ゼミナールⅠ・Ⅱ」も履修できるようにすることで、学部の教育リソースを活用するとともに、情報システム学科では「プロジェクト演習D・E」との連携を図ることで、専門的な知識と技術の主體的・実践的な学びを実現します。

#### オ. 健康栄養学部

- 1) 理科系専門科目を学ぶうえで必須となる「化学」について、学生の基礎知識の底上げと学習意欲向上を目的とした、少人数制指導による補習を引き続き行います。
- 2) 管理栄養士国家試験対策を引き続き行います。2022年度も専従スタッフによる個別指導をベースとし、4年生には模擬試験（年10～12回）及び模擬試験解説授業、国家試験合格水準に達していないと判断される学生を対象とした夏期講座（延べ30日）、国家試験直前講座（2月）、業者製模試及び解説授業、2・3年生には模擬試験と学習用ノート作り等の指導・支援を行います。

#### カ. 国際学部

- 1) 新入生に対する入学前教育の一環として、総合型選抜・学校推薦型選抜による入学予定者を対象に、学部教員が作成したWebベース教材による相対指導を行います。
- 2) 学生の主体性育成と学部活性化の一環として、新入生を対象としたガイダンスを上級学生がリーダーとなって企画・運営します。また、卒業予定学生（主に4年生）には卒業論文をベースとしたポスター発表を卒業研究発表会で課す等、学部独自のイベントを通して「自身で考え、主体的に行動できる学生」を養成していきます。
- 3) 地域社会との関わりや国内外でのボランティア活動等を重視し、地域の国際交流組織やボランティア団体等との交流を深めます。
- 4) コロナ禍の状況を勘案しながら、大学・学部主催の国際交流研修プログラム、学部の短期留学プログラムの実施、留学支援、海外ゼミ活動の拡充等を行います。また、学生への海外危機管理教育を行います。
- 5) 1年生を対象にTOEICや就職向けの適正試験の受験機会を設けることで、外国語（英語）

学修意欲の喚起や、就職率の向上及び進路意識の啓発を図り、早期からのキャリア支援体制を充実させます。

キ. 経営学部

- 1) 現行カリキュラムを円滑に実施し、専門性、教養、そして語学力を高めるとともに、「創造的思考力」、「協働」、「コミュニケーション」における独自の能力向上を図ります。
- 2) 東京あだちキャンパスにある学部として地域連携に取り組みます。足立区を始め東京都や近隣の教育機関、企業、団体との連携関係を構築し、地域連携を視野においた授業において内容を充実させます。
- 3) インターンシップ・勤労体験学習成果発表大会を、経営学部の企画運営で実施します。
- 4) 大学の高大連携事業に協力し、東京都や埼玉県の高校との交流を深めます。
- 5) 入学予定者の保護者を対象とした学部教育説明会を実施し、保護者と連携を一層強めることで、学生指導の強化を図ります。
- 6) 新型コロナウイルス感染症の流行によって従来の日常生活が送れず、精神的にダメージを受けた学生が少なからずいるため、大学の諸施設と連携して心のケアに努めます。
- 7) 就職率の向上を目的として、経営学部生向けに特化した就職講座を引き続き実施していきます。そのための統一ゼミを年数回実施します。

⑩ 大学院における取り組み

大学院各研究科において、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づき、授与する学位にふさわしい力をつけさせるための教育及び研究指導を行います。

ア. 教育学研究科

- 1) 越谷市教育委員会及び越谷市立小学校・中学校等の地域社会と連携した実践研究と対話型の徹底した少人数教育を行います。（2021年度は新型コロナウイルス感染症対応のため、一部大学での講義に振り替えて実施しました。2022年度は対応を検討中です。）
- 2) 2018年度から大学院生へタブレット端末を貸与しています。2022年度もICTを活用した学修支援体制を引き続き整備します。
- 3) 2021年度から教育現場における教育諸課題に対応するためのカリキュラム改革（心理学関連科目の充実を含む）を実施しています。
- 4) 現職教員等の大学院受入れに力を入れ、広報パンフレットを広範に配布します。

イ. 人間科学研究科

- 1) 臨床心理学専攻、人間科学専攻共に2018年度から新カリキュラムを開始しました。臨床心理学専攻では公認心理師及び臨床心理士を養成するためのカリキュラムに対応し、資格取得を目指す学生を支援します。
- 2) 修士課程在学学生及び修了後5年度内の修了生を対象に論文コンテストを継続して開催します。
- 3) 本研究科主催による、自治体・地域団体・大学が連携して取り組んでいる地域づくりの事例を発表する「地域連携フォーラム」を開催します。
- 4) 『BUNKYO ACTION PLAN 2025』の重点事業であるSDGsとの連携を意識した教育に取り組みます。
- 5) 修了生と在校生とのネットワークを通して、実習や就職につながる交流の場を設けます。

ウ. 言語文化研究科

- 1) 北京外国語大学日語学院、北京大学外国語学院との交換留学、及び相互の大学院生に対する集中講義、特別講義等を実施して国際交流の強化を図り、教育内容の更なる充実に

取り組みます。

- 2) 博士後期課程の特色ある展開として、北京大学MTI（通訳翻訳修士課程）を始めとする実学修士からの受入れ体制を整備するよう継続して取り組みます。
- 3) 博士後期課程において、学位授与を継続的に行えるよう、引き続き研究指導体制を着実にを行い、大学院生の研究発表等の支援を更に充実させます。

エ. 情報学研究科

- 1) 2021年度から構成員の2キャンパス配置が講義において問題なく開始されました。研究指導においてはまだ事例が無いことから、引き続き構成員2キャンパス配置体制の早期定着化のための検証と改善に取り組みます。
- 2) 事務の手続きの簡略化に伴う学生サービスへの影響に対して、日常の円滑な研究活動に向けた対策に取り組み、支援を充実させます。

オ. 国際学研究科

- 1) 茅ヶ崎市との連携事業として、茅ヶ崎市職員研修の合同セミナーの開催を、研修の仕方を調整しながら引き続き行います。
- 2) 大学院生のキャリア支援を主な目的とし、本研究科修了生による講演会、大学院生との意見交換会を企画、実施します。
- 3) ドイツ・オズナブリュック大学及び中国・廊坊師範学院との協定に基づく交流を継続して行います。
- 4) 大学院外国人留学生の獲得のために、「外国人留学生別科」との連携を強化します。
- 5) 毎年秋に開催されている「グローバル・フェスタ」「国際協力キャリアフェア」への出展を行います。
- 6) 国際文化学会との連携で設けている「インターカルチュラル・コーディネーター」の資格取得プログラムを継続して運用します。

#### ⑪ 専攻科における取り組み

教育専攻科

- 1) 小学校教諭専修免許状取得のために、高度な実践的指導力が身に付くよう指導します。
- 2) 教員採用試験の合格を目標に支援します。
- 3) 小学校での現場体験を行います。

#### ⑫ 外国人留学生別科における取り組み

- 1) 本学の学部や大学院を始め、国内の様々な学校に入学を志望する留学生に対して、日本語や日本事情等の準備教育を行います。
- 2) 演習授業や研修等を通じて、日本文化体験の機会を提供します。

## 4 当該年度の研究活動・支援計画

### ① 外部研究費（科学研究費補助金等）の獲得支援

教育研究推進センター（研究推進部）を中心に、説明会の開催を始め、外部研究費獲得支援を強化します。科学研究費補助金に不採択となった研究計画に対して、翌年度の申請を条件とした研究及び研究準備の支援も継続して学内の競争的資金（以下、学長調整金）で行います。

### ② 学内の競争的資金

学長調整金による教育改善に関わる事業の支援を行います。専任教員の教育改善の取り組みに対して、1件当たり最大200万円の支援を行います。支給を受けた者に対しては、3年以内に

成果レポートの発表を義務付けます。

また、学長調整金では、1件当たり最大50万円の範囲で出版以外の形態による研究成果発表、1件当たり最大100万円の範囲で地域連携、国際交流等の事業の実施を支援します。

### ③ 学術図書出版助成

博士論文を始めとした専任教員の学術図書刊行を、出版に要する著者負担額の50%（上限100万円）の範囲内で支援します。

### ④ 在外研究の支援

専任教員の在外研修について、2022年度は国外研修1名を派遣します。また、2023年度についても国内・国外研修及び学内研修のそれぞれにおいて2名以内計6名の派遣枠で募集します。

## 5 当該年度の学習者支援事業計画

### ① 奨学金、奨励金及び授業料減免による学生への支援

ア. 「大学等における修学の支援に関する法律」に基づく授業料及び入学金の減免制度について、学生への情報提供や減免制度の対象となる学生の手続等について支援を行います。また、同制度と文教大学奨学金及び緊急特別奨学金制度の併用により、経済的に修学困難な学生に対しより広く、効果的な支援を行います。

イ. 成績優秀者への奨励金制度により、学生の学習意欲喚起を図ります。

ウ. 私費外国人留学生に対する奨学金制度及び授業料減免制度による、経済的に修学困難な私費外国人留学生への経済的な支援を行います。

エ. 文教サポーターズ募金を原資とした新型コロナウイルス感染症対策学生支援のための緊急特別奨学金制度を継続し、必要な学生への経済的支援を行います。

### ② 障がいのある学生への支援

2016年度に定めた「文教大学における障がいのある学生への支援に関する基本方針」に基づき、当該学生のニーズにより、合理的配慮を実現します。

### ③ 100円朝食の実施

学生の父母と教職員で構成する協力団体（以下、父母と教職員の会）との共同事業として学生に規則正しい食生活を促し、朝食をしっかりとってから授業に参加することで集中力を高めてもらおう効果を期待した「100円朝食」を引き続き行います。

### ④ 海外留学希望者に対する支援

海外協定校への留学意欲が高い学生に対し、越谷キャンパスでは留学時にスコアが必要な各種検定試験の受験料の補助を行います。また、多言語学習ラウンジにおける各国語学のネイティブによる講座、English Free Talking（英語でのランチタイムミーティング）等を通じて、語学力の向上と異文化理解の深化を促し、留学へのサポートとしています。湘南キャンパス及び東京あだちキャンパスでは英語力を高めるために開設する講座の受講料及びTOEFL受験料の補助を行います。また、東京あだちキャンパスでは多言語学習ラウンジにおいても英語学習のサポートを行っています。

### ⑤ アジアからの協定校交換留学生に対する住居費補助

本学への留学の可能性を広げるため、本学が指定した住居に居住するアジア（オセアニアを含む）からの交換留学生に対する住居費の補助を引き続き行います。

### ⑥ キャリアイングリッシュ講座（東京あだちキャンパス）

地域連携センターでは、学生の英会話能力の向上を目的としたネイティブスピーカーによる少人数制（1グループ最大12名）の講座を開講します。

⑦ バス通学定期券等購入代金補助事業（湘南キャンパス）

湘南キャンパス最寄り駅（茅ヶ崎駅及び湘南台駅）から文教大学行きの路線バスを利用して通学する学生に対し、通学定期券購入代金の一部を補助する事業を行います。

## 6 当該年度の保護者連携事業計画・地域連携事業計画

① 地域、行政、企業と大学の連携・協力

- ア. 越谷市との連携包括協定に基づき、定期的な連絡会を持ち、行政や地域との連携について協議を深め、連携事業を計画します。
- イ. 文教大学越谷図書館で 1982 年度から続く連携事業である「あいのみ文庫活動」を引き続き行います。あいのみ文庫の活動は大きく 2 つの活動を軸に進めます。
  - 1) 図書館児童室を使用した週 1 回（授業のある期間の木曜日午後）の文庫活動（図書  
の貸出、お話し会等）
  - 2) 保護者・大人を対象とした講座の開催（絵本の読み聞かせの技法等）
- ウ. 2018 年に発足した、越谷市消防団「学生機能別団員」においては、大規模災害発生時の避難所の運営補助や消防団イベントにおける PR 活動等に取り組んでいます。また、地域活動だけに限らず、大学の中においても研修会・訓練等で得た知識を避難訓練等で積極的に役立て、模範となる行動を実践し、将来にわたって、「共助」の一翼を担う人材になることを目指しています。
- エ. 2013 年 5 月に締結した「神奈川県警察と文教大学とのサイバー犯罪の防止に係る連携協力に関する協定」に基づき、県警が行うサイバー防犯ボランティア活動への学生参加や、ボランティア育成への協力、違法有害情報検出に関わる共同研究等、安全・安心なインターネット利用環境の整備・提供に寄与します。
- オ. 2012 年 11 月に締結した「神奈川県教育委員会と文教大学とのインターネット等の安全・安心な利用に係る連携協力に関する協定」に基づき、情報学部を中心に県立学校や県内の市町村教育委員会との連携協力のもと、児童・生徒の携帯電話やインターネットの安全・安心な利用に係る諸課題の解決に向けた教員の研修、調査研究、学校教育上の様々な課題に取り組み、神奈川県の教育の充実・発展に寄与します。
- カ. 2015 年 5 月に締結した「寒川町と文教大学との連携協力に関する包括協定」に基づき、まちづくり懇談会や出張講座等に協力し、地域社会の発展に寄与します。
- キ. 2017 年 6 月に締結した「足立区と文教大学との包括的な連携協力に関する協定書」に基づき、足立区及び区内 5 大学等と連携し足立区を中心に地域連携事業を企画し実施します。
- ク. 2021 年 5 月に締結した「茅ヶ崎市と文教大学との包括連携に関する協定」に基づき、地域課題の解決に向けた人材の育成やまちづくり等に協力し、地域社会の発展に寄与します。
- ケ. 2022 年 2 月に締結した「埼玉県教育委員会と文教大学との連携協力協定」に基づき、埼玉県の教育の充実・発展に寄与します。
- コ. 2018 年度に締結した「連携協力に関する協定書」に基づき、第一勧業信用組合及び足立成和信用金庫と東京都内の地域活性化や学生のインターンシップ等の連携活動を推進し

ます。また、同じく 2018 年度に締結した「文教大学と足立成和信用金庫の産学連携に関する協定書」に基づき、定期的に情報交換の場を持ち、足立区内を中心に地域活性化や学生のインターンシップ等の連携活動を推進します。

サ. 各連携事業については、新型コロナウイルス感染症の状況や各自自治体等の事業実施方針等にも十分留意したうえで実施可否を検討します。実施する場合は新型コロナウイルス感染症対策を徹底します。

## ② 学部・研究科の教育・研究と結びつけた地域連携の取り組み

### ア. 文学部

新型コロナウイルス感染症の流行が収束した場合、日本語教員養成コースで学んでいる学生が外国人を対象とした日本語講座に出向き、ボランティアで日本語を教える取り組みを継続します。

### イ. 情報学部

2013 年 5 月に締結した「神奈川県警察と文教大学とのサイバー犯罪の防止に係る連携協力に関する協定書」に基づき、サイバー犯罪の防止に関する研究交流等を推進し、その成果を生かして県民に安全・安心なインターネットの利用環境を整備し、かつ、提供します。具体的な取り組みとして、茅ヶ崎市近隣の小学校・中学校や保護者等から依頼を受けた際には学生ボランティアを派遣し、「サイバー防犯教室」を実施します。

### ウ. 健康栄養学部

湘南台にある子ども食堂（地域の子ども達や保護者等を対象に食事を提供するコミュニティ）に、お菓子や食材を届ける支援活動を継続します。また、健康栄養学部内にある抗酸化研究プロジェクト（ATOM 研究）チームの食育活動の一環として、タマネギ外皮入りのパンの開発を進めます。

### エ. 国際学部

2014 年 11 月に締結した「高山市と文教大学との連携・協定に関する協定書」に基づいて、文化・教育及び地域振興等に関わる多様な分野で連携・協力を図るとともに、同市の開催する市民講座やイベントでの講演や講義を実施します。また、小学校・中学校・高校での学修支援ボランティアや、東京都足立区の国際交流団体や地元ボランティア組織との交流を深め、地域活動を行います。

### オ. 経営学部

行政が抱える課題の解決を目指す実践的な演習科目として 2016 年度に開講した「公共経営実地演習」について、足立区の協力のもと、引き続き演習内容の充実を図ります。足立区役所各部署の政策担当者等を講師として招聘し、個別の政策事例を用いて、グループディスカッション形式による講師とのインタラクティブな政策分析や代替政策の検討を行います。当該の行政が抱える課題を解決すべく、足立区役所関係機関・関係施設等のタイアップのもと学外での職場体験実習を含め実践演習を進めていきます。

### カ. 教育学研究科

「実践研究」協議会を越谷市教育委員会、関係小学校・中学校、研究科（教員、大学院生）の参加により開催します。（2021 年度は新型コロナウイルス感染拡大により実施できなかったため、2022 年度も感染状況により実施を検討します。）

### キ. 人間科学研究科

研究科主催の地域連携フォーラムを、人間科学研究科における学際的視点に立った研究・実践活動や成果を地域社会に還元していく社会貢献活動の一環として位置付け、地

域連携・産官学連携・ステークホルダーとの意見交換や連携の場として 2022 年度も実施します。また、獨協大学「地域と子どもリーガルサービスセンター」と継続的に連携し、学生の正課外実習及び有資格者の教員による相談業務を行います。

ク. 情報学研究科

教員の研究テーマに沿った地域連携が個々に活発に行われており、研究支援を通して、地域連携に取り組みます。また、研究を起点として、地域行政や団体等から委員を委託されているケースも多くあります。

ケ. 国際学研究科

2021 年度に本学が「包括連携協定」を結んだ茅ヶ崎市との協働により、国際学研究科における実践的な教育・研究の充実と、地域の実態に則した茅ヶ崎市の政策や行動に資する協働事業を行います。

③ 高大連携の取り組み

ア. これまで各キャンパスで構築されてきた連携協定校等との関係を踏まえ、地域連携センターを窓口とした高大連携の在り方を全学の視点で検討します。

イ. 越谷キャンパスでは、協定校生徒の授業聴講を受入れます。また、埼玉県内の高校生が普通の大学の授業を学生と共に受講することにより、将来の学校や学部選択の参考にする「県民の日 高校生『学び』“夢”プラン」にも参画します。

ウ. 湘南キャンパスでは、神奈川県立総合教育センターとの連携講座を継続して実施します。

エ. 東京あだちキャンパスでは、近隣高校との連携に繋がる事業を検討します。

④ 地域連携センターによる講座

ア. 越谷・湘南・東京あだちキャンパスにおいて、地域の人々を対象に、様々なテーマのオープンユニバーシティ（有料講座）、市民フォーラム、特別講演、公開講座（いずれも無料）等を開催します。

イ. 越谷キャンパスでは、埼玉県「大学の開放授業講座（リカレント教育事業）」に協力し、「文教大学シニアアカデミー」を開講し、埼玉県在住で 55 歳以上の方の授業聴講を受入れます。

ウ. 越谷キャンパスでは、越谷市・松伏町等と共に埼玉県の社会教育事業「子ども大学」の実行委員会を構成し、越谷市・松伏町の小学生を対象に本学教員による講義を提供します。

エ. 湘南キャンパスでは茅ヶ崎市との共催により公開講座を開催します。

オ. 東京あだちキャンパスでは、足立区と連携し区民向けの講座を開催します。

⑤ 保護者との連携

ア. 父母と教職員の会と連携し、保護者に大学を知っていただく取り組みを進めます。また、文教大学で学ぶ学生が正課内外の様々な場面で学び成長していけるよう、保護者と共に支援方法を考え、取り組みます。また、2015 年度から始めた学生向け「100 円朝食」の提供も、父母と教職員の会との共同事業として引き続き実施します。

イ. 父母と教職員の会が開催する「一日大学」において、参加された保護者に対し、情報学部では学部教育説明会を実施します。国際学部では学部教育説明会や学科別懇談会を実施します。健康栄養学部では、学部教育の内、特に臨地実習や管理栄養士国家試験対策の説明会を、卒業生を交えて実施します。いずれも説明や懇談を通し保護者との連携を深めます。また、経営学部では入学予定者の保護者を対象とした学部教育説明会を実施することにより、保護者との連携を深め、学生指導の強化を図ります。大学院進学とい



う進路選択についても説明を実施することにより、保護者に入学前から大学院生への理解との連携を促しています。

#### ⑥ 大学間の連携・協力

- ア. 越谷キャンパスでは、「埼玉県東部地区大学単位互換に関する協定書」に基づき、埼玉県立大学、獨協大学及び日本工業大学との学生の単位互換制度を継続して実施します。
- イ. 湘南キャンパス及び東京あだちキャンパスでは、「文教大学と名桜大学との単位互換に関する協定書」に基づき、沖縄県名護市の名桜大学と本学の学生とを相互に単位互換特別聴講生として受入れ・送り出しを行います。
- ウ. 情報学研究科では、2012年度に加入した「神奈川県内の大学間における大学院学術交流」に基づき、協定校が相互に授業を開放する単位互換制度を継続して実施します。
- エ. 東京学芸大学、上越教育大学及び埼玉大学の各大学と締結している連携協定に基づき、教員養成の高度化に係る連携事業について実施・検討します。

## 7 校舎施設設備の改善計画

<越谷キャンパス>

### ① 越谷キャンパス新棟建設工事

2023年度に越谷キャンパスに教室棟を新たに建築し、「新たな教育の展開」及び「授業運営の支障緩和」を図ることを目的として、「(仮称)文教大学越谷キャンパス新棟建設工事」を2020年度から3年間計画で実施しています。

2022年7月上旬には、越谷キャンパス新棟の全体竣工を迎える予定で、2022年の秋学期からの利用に向けて設備保守等の準備も併せて実施します。新棟の開設により、教育環境・校内環境が一新され、学生・教職員間のコミュニケーションを強化する集いの空間を創出します。

### ② 越谷キャンパス再開発計画

『BUNKYO ACTION PLAN 2025』では、「競争力を持った教育環境の整備」として、越谷キャンパス新棟の建設及び耐震診断結果を踏まえた再開発計画を進めています。

越谷キャンパス再開発の基本計画策定と教育環境整備に必要な条件についての検討・検証を行い、開発要件等諸条件を整理するために越谷市等行政機関への確認、相談を行います。

<湘南キャンパス>

### ③ 湘南キャンパス建物外壁調査及び改修工事

湘南キャンパスの建物の大半は、タイル張りの仕様になっており、特定建築物定期調査の定期報告にて外壁全面調査が必要となります。2022年度については、学生が歩行する箇所を最優先に建物の調査及び改修工事を行います。施工期間は授業への影響が少ない夏期休暇中を予定しています。

## 8 入試制度、募集強化計画

### ① 大学入学者選抜改革への対応

大学入学者選抜改革への対応については、引き続き「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の学力の3要素を多面的・総合的に評価するための入試制度の検討を行います。2022年4月入学の高校1年生から新教育課程が開始されることから、新学習指導要領に対応した2025年度入学者選抜における大学入学共通テスト

利用入試の教科・科目の設定等について、可能な限り早期に予告・公表を行います。

## ② 募集強化計画の実施

高校とのつながり（信頼関係）構築のために、一定の基準による対象校を選定し、同じ訪問者が継続的に高校を訪問する学生募集活動を引き続き実施します。また、東京あだちキャンパス開設に伴う高校訪問や指定校訪問、高校で開催される説明会や模擬授業、会場形式の相談会等に積極的に参加します。

オープンキャンパスについては、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、対面での受験生及び保護者の参加を可能な限り受入れる工夫を行います。

立地的・時間的制限から対面式に参加しにくい層については、引き続きオンデマンド配信やWebによる個別相談を実施します。

## ③ 付属学校との関係性強化

本学付属高等学校生を対象とした入学者選抜方法については、付属高等学校と連携しながら検討します。

また、大学見学会等の企画を提案し、受験生及び保護者、付属学校教員との交流を積極的に実施し、関係性の強化を図ります。

### (3) 文教大学附属中学校・高等学校

#### 1 文教大学附属中学校・高等学校のポリシー

本校で学ぶことで、すべての人を信じて、尊重して、あたたかく優しく思いやる「人間愛」の精神を育みます。また、自分の夢や生き方や、将来の進路を発見して、それに向けて努力し、希望進路を達成すること、さらにその進路希望の実現によって、日本だけでなく世界の人々の幸せな生活に役立ち、グローバルな社会で貢献できる人材を育てます。

#### 2 当該年度の教育目標

生徒が明るく楽しい学校生活を送る中で、すべての人を大切に思う「慈愛の心」、知識と技術を磨き、自分で課題を発見して解決を目指す「輝く知性」、コミュニケーション能力や、ICTのリテラシーを高め、グローバルな視点をもつ「世界に飛翔する力」を育てます。さらに、学力を向上させ、自ら積極的に難関の進路にチャレンジすることができる、「進学力」の向上を目指します。

#### 3 当該年度の教育活動計画

##### ① ICT を活用した効果的な授業の実施

2022年度は、タブレットPCを導入して4年目となります。すでに、通常の授業や課題配信、オンライン授業、学校行事等の様々な場面での有効活用が進められています。さらに、興味関心を高める効率的な授業を目指し、考える・議論するアクティブラーニング型の授業や、シンプルでわかりやすく視覚に訴える授業を実施し、学力向上に向けた活用や、生徒の自主的・主体的な学習に向けた活用等を工夫改善していきます。

##### ② グローバルコンピテンスプログラムの新規導入

これからのグローバル社会で活躍することができる人材の育成を目指して新たに実施します。コミュニケーション能力、異文化理解、リーダーシップ、チームビルディング、モチベーションと共感、批判的思考等の6つのユニットを、派遣された外国人講師からオールイングリッシュで学ぶプログラムで、これからの社会に生きるために必要となる知識とスキルを身につける学習を実施します。

##### ③ 新教育課程の適切な実施

「なんのために学ぶか」の意義をもちながら「知識・技能」「思考・判断・表現力」「学びに向かう人間性」の3つの柱で教科を再整理した2022年度学習指導要領の改訂に伴い、本校の教育課程を変更しました。2022年度も知識と技能の習得、思考力判断力の育成を重視し、主体的に学習する力を確実に付けて、確かな学力と自ら課題を解決する力を育成します。

##### ④ 進路行事・キャリアガイダンスの強化

進路行事（学生による大学紹介、大学体験授業、オープンキャンパス参加、希望進路レポート、共通テストガイダンス、職業講演会、国際理解講演会、探究学習発表会）の適切な実施で、生徒の進路目標の明確化や、キャリア意識の形成を図ります。

## ⑤ 進学実績の向上

学力向上に向けて、授業の改善や効果的な ICT の活用を進めるとともに、年間 5 回の模擬試験を実施します。また、学習状況の個別資料や受験データを基にした面談の実施等、きめ細かな進学指導を実施して、安易に入れる大学を選ぶのではなく、積極的に難関大学へチャレンジすることを促して、難関大学合格者数の増加を目指します。

## 4 当該年度の研究活動計画

### ① ICT 機器の活用研修

生徒の自学自習を推進するため、オンライン授業の工夫や、タブレット PC の活用により課題の配信・回収のスピードアップを図り、全教員が本校の機器を十分に活用した授業を進めることができるようになります。そのため、様々な授業での活用の工夫や機器の扱いについての研修を実施し、各教員の ICT 活用のスキルを高めていきます。

### ② 進学実績の向上に向けた研修

生徒カルテ（毎年の模試結果、成績、出欠状況、課外活動、面談記録、各種検定取得等の情報を随時更新したデータ）を面談や進路指導に有効活用します。さらに、大学の情報・出願指導計画の情報共有、受験生出願傾向等を把握するための教員研修や、進学指導研究会を年 3 回実施します。また、生徒の進路面談での受験計画の作成のアドバイス、個々の生徒の受験校の絞り込み等により、難関大学へのチャレンジを進めていきます。

また、大学入学共通テストの結果を踏まえた、「出願指導検討会」を実施し、生徒の国公立大学の出願先の選定に向けた指導を徹底して、合格者数の増加を図ります。

### ③ 教員研修の実施

教育上の諸課題について、夏期教員研修会で外部講師から学ぶ機会を継続します。校内研究授業においては、学校全体の共通テーマから教科ごとの課題を作成し、授業力の向上に努めていきます。また、私立学校協会等の主催する校外での研修会について、教職員の参加を積極的に奨励し、教育力の向上を一層図っていきます。

## 5 当該年度の学習者支援事業計画

### ① 文教ステーションの実施

中学校・高等学校それぞれ、学習指導講師派遣会社と契約し、生徒の放課後・休憩中の自習室の管理・運営、生徒の質問対応、特別講座の実施等、生徒の授業外の学習支援を行うことで、学習習慣の確立や、予習・復習のための時間として有効活用させ、基礎学力の向上を目指します。また、難関大学進学に特化したプログラムや、総合型選抜入試対策の個別の指導プログラムも継続します。

### ② 各種検定取得の推進

英語検定・漢字検定・数学検定をそれぞれ年間 3 回校内で実施し、受験者を増やし基礎学力の向上や進学対策に活用します。

### ③ 長期休業中の講習の実施

授業担当教員による、テーマや習熟度に応じた夏期、冬期、春期の休業中の講習を、各期それぞれ2回以上実施し、基礎や発展的な学力向上を目指します。

## 6 当該年度の保護者連携事業計画・地域連携事業計画

### ① 保護者会、学級懇談会の実施と学年通信の配信・配布

学年ごとの保護者会、学級ごとの懇談会をそれぞれ各学期1回実施し、学校情報の提供や、保護者向け進路ガイダンス、生徒の学習状況の紹介等を実施します。また、学年ごとに、月1回の学年通信を配信・配布して、行事や教育活動・学校行事の紹介や、家庭への伝達事項の周知をしていきます。

### ② ボランティア活動を通じた地域との連携

地域高齢者施設での吹奏楽演奏や、地域での清掃活動、祭りでの手伝い等を実施して、地域との交流を一層進めます。

## 7 校舎施設設備の改善計画

### ① 校内無線 LAN 化の推進

2019年から校内の無線 LAN の整備を実施しており、普通教室・特別教室・自習室・図書室については、機器設置が完了し授業や学校行事等で有効活用しています。今後は、その他の施設への配置を進めて、全校無線 LAN 化を完成させます。

### ② 自習室の整備

2020年から、高校生の自習室にブース型の個別学習机を整備しています。現在2教室に設置されており、集中して学習ができるスペースとなっています。引き続き個別学習机の整備を進め、学年ごとに1教室以上の自習室を整備します。

## 8 入試制度、募集強化計画

### ① 入試制度の工夫改善

入学者の質と量の確保を目指して、中学校入試では、入試の回数と募集人数の配分、入試科目の検討と見直しを進めます。高等学校入試では、推薦基準、入試回数等について、他校の状況を考慮して検討を進めます。

### ② 学校 PR 活動の推進

常に全教員がリクレーターになり、学校訪問・個別相談・外部相談会を担当して、PRのポイントや質問対応のマニュアル作成により、適切な学校 PR 活動を引き続き推進していきます。

### ③ 学校説明会の工夫

新型コロナウイルス感染症対策として、各説明会は人数を制限して実施していますが、毎回参加希望者が多く、申し込み順となっています。そのため、オンラインでの参加も可能として

おり、状況によりこの対応を継続していきます。また、一斉の説明会型ではなく、平日の夕刻や土曜日など、予約制の学校訪問も毎日受け付けており、本校の教員による学校案内や個別相談を行っています。多くの受験生や保護者から好評となっており、次年度も継続実施します。

## 9 その他

---

### ① 海外研修プログラムの推進

海外へ行くことが難しい状況が続く中でも、保護者や生徒の海外研修参加希望者は多いため、旅行会社や留学エージェント会社を通じて、状況確認や新規プログラムの検討を進め、海外研修プログラムを止めることなく継続発展させます。

### ② 留学・語学研修プログラムの新規開拓

オーストラリア短期・中長期留学、セブ島英語研修を継続検討します。また、「お台場留学」として、日帰り4日間のTGG（TOKYO GLOBAL GATEWAY）での英語研修の新規実施、また、カナダ長期留学の新規実施、ニューヨーク州私立高校への留学についての新規開拓を進めます。さらに、海外大学進学指定校推薦制度（UPAA University Partnerships for Alternative Admissions）に新規加盟し、海外大学への進学情報や出願指導、留学の斡旋、奨学金の申請等を受けられるようにします。

### ③ オンライン外国語講座の実施

希望生徒を募り、オンラインでの台湾華語講座・オンライン英会話の取りまとめを進め、様々な形態でのグローバル教育・語学教育を継続して実施します。

## (4) 文教大学付属小学校

### 1 文教大学付属小学校のポリシー

- 「ほがらかに ただしく きよく あたたく」  
建学の精神「人間愛」を礎に、「あたたかい ふるさとのような学校」において世界に羽ばたく国際人を育成します。

### 2 当該年度の教育目標

- 「慈愛の心をもった子ども」「自ら学ぶ子ども」「情操豊かな子ども」「頑張る子ども」「明朗な子ども」の育成
  - ・ 一人ひとりの可能性を大切に育み、一人ひとりが輝ける学校へ
  - ・ 「教えられる学校」から「学びを創る学校」へ  
子どもたちが自分自身の思考において活動する能動的な学びを創ります。
  - ・ いついかなるときも、学校と子どもと家庭がつながり、学びを止めない、学び続けることのできる「強い学校」を創ります。
  - ・ 多様な価値観を受入れられる柔らかい心と自分の考えの軸をもって表明できる強い心をもったグローバルに活躍する人材を育みます。

### 3 当該年度の教育活動計画

#### ① 「21世紀型スキル」の育成：STEAM教育推進

子どもたちが向かう近未来は「Society5.0」社会であり、「答え」のない時代だからこそ、答えを自ら創造していける人材を育成していく必要があると考えます。

- 我々が想起する Society5.0 とは
  - ・ IoT で全ての人とモノがつながり、新たな価値が生まれる社会
  - ・ イノベーションにより、様々なニーズに対応できる社会
  - ・ ロボットや自動走行車などの技術で、人の可能性が広がる社会
  - ・ AI により、必要な価値が必要なときに提供される社会 等
- Society5.0 でもとめられるチカラとは
  - ・ Science Technology Engineering Art Mathematics  
これらを横断的に活用し、問題解決していくチカラ

<展望>

- Science  
自らのなぜ？（疑問）を引き出し、実験を通して、楽しみながら論理的に考える力を付けます。
- Technology  
急速に変化する現代社会に対応できるよう、面白いアプリを創ったり、最新の技術に触れたりします。
- Engineering  
ロボットや、レゴ、パズル等を自分で組み立てたりすることで、AI時代を生き抜

く、自らで考え、取り組む力を付けます。

○ Art

モノをつくったり、デザインしたりする楽しさ、ワクワクを与える Art を取り入れ、想像力を付けていきます。

○ Mathematics

苦手な人も多い数学を知ること、世の中の流れを論理的に読み解く力を付けます。

<内容>

○ 3年生以上の総合的な学習を「STEAM・B」とし、STEAM 教育を推進する。

- ・テーマにそって自分が追究したいことを見つける。【課題設定】
- ・自分が設定した課題の解決に向けて情報を集める。【情報の収集】
- ・集めた情報を活用し整理し自分なりの発見を見つける。【整理・分析】
- ・発見したこと等を相手にわかりやすいように手段を選んで伝える。【まとめ・表現】

## ② 文教大学附属小学校における ICT 教育の推進

Society5.0 時代を生きる児童が「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、生きる力」を身に付けるために、個別最適化された学びを持続的に実現していきます。

<展望>

○ ICT 機器を文房具のひとつとして使える人材の育成

近年、「生きる力」を育成するためには、情報活用能力が不可欠であることが叫ばれています。また、現代において、情報活用能力は欠かせないものであると考えます。よって、文教大学附属小学校としては、ICT 機器を鉛筆・定規等の文房具のひとつとして使える人材を目指し、ICT 教育を推進します。

○ 学校内におけるネットワーク環境整備計画

- ・全児童一人ひとりへ Google アカウント（学校保管）を配布
- ・一人ひとりの Google アカウントを使用し、Google Classroom を開始
- ・Google Workspace for Education Fundamentals の利用環境の構築
- ・普通教室での無線 LAN 接続環境の整備

<内容>

○ ICT 教育で目指す 3 つの力

- ・情報活用の実践力
- ・情報の科学的理解（コンピューターリテラシー）
- ・情報社会に参画する態度

○ 各ブロックにおける目標

- ・低学年（1年生、2年生）遊び感覚で行える活動を通して、コンピューターやインターネットに慣れ親しむ。
- ・中学年（3年生、4年生）グループにおける問題解決や表現活動を進め、基礎的な情報活用の実践力を身に付ける。
- ・高学年（5年生、6年生）個人やグループにおける課題解決学習を中心とし、主体的な情報収集・発信・伝達手段の選択ができ、情報活用の実践力を高める。

○ 「情報モラル」について

- ・発達段階に合わせて系統的に指導を進めるとともに、教師自身も「情報モラル」を深く理解したうえで指導にあたります。



### ③ 国際社会で活躍する人材の育成：英語力の強化

#### ○ 「ブリティッシュヒルズ短期留学（福島英語村）」への参加

2015年度から実施しているオーストラリア短期留学について、新型コロナウイルス感染症の状況によりオーストラリアへの渡航が困難なことから、2022年度に限り「ブリティッシュヒルズ短期留学（福島英語村）」を開催します。個々の英語力に関わらず「英語でたくさんコミュニケーションをとり、異文化をより多く体感する」というコンセプトは、国際人を育てていきたいと願う本校の目指すところと合致するものです。24時間 ALL ENGLISH の環境は、グローバルな人材形成に大きく寄与するものと考えます。

#### ○ 「TOKYO GLOBAL GATEWAY」への参加・「ENGLISH TIME」の継続

2020年度から実施の新学習指導要領においては、これまで小学校5～6年次において実施されてきた「外国語活動」を教科化し、更に「外国語活動」を前倒しして3～4年次で実施するよう移行措置が示されています。中学校、高校においても習得すべき英語力に関する目標の引き上げが行われ、高校卒業時点で現在の3,000語レベルに対し、4,000～5,000語レベルの英語習得が目標とされています。そこで、本校においても国際社会で活躍する英語力の育成を図ります。「英語が話せる文教大学付属小学校生」を目指して、2019年度まで週1時間だった英語の時間を、2020年度全ての学年において週2時間の設定とし、英語に触れる機会を更に増やしてきました。2022年度もこの英語時数を確保します。45分の枠に縛られない短時間学習（毎日10分×2回）：モジュールタイムにおける「ENGLISH TIME」を今後も継続して設置し英語力を強化します。

また、近年東京都に設立された「TOKYO GLOBAL GATEWAY」に3年生以上が参加することも継続します。施設の中で使われる言語は全て英語という環境の中で、授業で身に付けてきた英語の力を「活用の言語」として今後も生かします。

#### ○ 「英語の絵本コーナー」の充実

図書館が校舎の中央部にある特長を活かし、「英語の絵本コーナー」を充実させます。日本語でも馴染みのある絵本の英語シリーズを取りそろえる等、自然な形で英語に親しめる環境を今後も整えます。

#### ○ 「英語の電子辞書」の活用

児童の手に取りやすい場所に英語の電子辞書を設置し、わからない単語があれば検索し、興味のある言語に触れる機会をできるだけ生活の中に溶け込む形で活用し、「生きて働く英語のチカラ」を育成します。

### ④ 非認知能力・知的能力を高める体験活動の充実

新型コロナウイルス感染予防対策を充分にとったうえで、引き続き、可能な限り、体験活動を充実させます。「生きて働く」知的能力を高めていくために、さまざまな活動において「本物と出会う」「心に火をつける」体験活動を取り入れていきます。

宿泊学習では、「楽しかった」では終わらぬよう、事前学習、事後学習を充実させます。さらに、宿泊のような特別行事に限らず、日々の学習の中でも、低学年では手指を使った操作体験活動、中学年・高学年では実物にふれる機会や実験の機会を大切にしていきます。2022年度の

全校あげての宿泊は、「富士山」近辺であるため、樹海における植物や生き物の在り方、気候の変化、山の暮らし等、発達段階に合わせて体験活動を生かした知的能力を高めます。

#### ⑤ 「全館図書館」のメリットを生かし、「読む力」「書く力」の言語力を強化

学校の中心に本があり、どこの教室であっても本が身近に手に取りやすい「全館図書館構想」の環境は、どこの学校にもない唯一無二の文教大学付属小学校独自の特色です。この好環境を最大限に生かし、「読む力」「書く力」を中心とした言語力を今後も強化します。

- 【読む力】「全館図書館構想」の校舎に移り変わってから、国語の学力テストの平均点が向上してきたことに加え、児童の姿に変化が見られています。児童同士の話題がテレビやゲームの話から本の話に変わってきています。また、児童のかばんの中にはいつも本が入っている、そのような変化も見られます。今後も継続し、モジュールタイムを活用した本に親しむ時間を意図的・計画的に組みます。
- 【書く力】日々のおたよりノート（日記）を通して、自己を振り返り、考えや思いを文章で表現する書く力を養います。また、全校児童の作文を文集「すぎな」一冊にまとめます。この完成までに、何回も推敲を重ねて作文を仕上げていく経験を1年生から取り組んでいきます。
- 【話す力】3年生以上は、弁論大会という大きな取り組みに参加します。この取り組みを通して、論を立てまとめて表現する力を付けます。国語の授業の中で書き溜めた小文の中から、各自がテーマをひとつ取り出し、そこに道筋をつくって論を組み立てていくことによって、書く活動から自分の考えを明確に表現していく力を育みます。

#### ⑥ プログラミング教育の充実

2018年度から導入している人型ロボット「Pepper」を活用し、論理的思考力を児童に付けるべく「プログラミング教育」を充実させます。

##### ○「2DAYS Pepper」

2日間ずつPepperが教室をまわり、プログラミングの授業を設定しやすくしたり、触れ合ったりする機会を学期ごとにとります。発達段階に応じて、Pepperと遊んだり、Pepperが学校案内をできるようにプログラミングを組んだりして、プログラミングの力を育成します。

#### ⑦ 自分の考えをもち広げ深める力の育成：「考えの形成」を促す指導法の工夫 ～「学ぶこと・考えることを楽しむ」

##### 本校独自の年間指導計画・単元ごとの評価規準の充実と活用～

各教科の学年目標や内容を十分に満たし、更に上の学年の内容を先取りする年間指導計画と評価規準表を全教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間にわたって再編成・決定し、活用することによって、児童の力をバランスよく育てます。

#### ⑧ 指導体制の工夫による個に応じた指導

ティーム・ティーチングや習熟度別学習、課題別グループ活動等を適切に行い、個に応じた指導を徹底し、基礎学力の定着と学力向上を図ります。特に学力差のつきやすい算数においては、どの学年でもティーム・ティーチング、習熟度別学習を徹底し、一人ひとりの学力を確実なものとしていきます。

⑨ 基礎・基本の確実な定着

モジュールタイム、漢字検定（年間2回）、全学年辞書の日常活用、家庭学習の徹底（10分×学年数+20分と取り組みカード活用）、ノート指導等、きめ細かな指導を積み重ね、基礎学力を定着させます。

⑩ 多様な学習展開による学ぶ意欲の高揚

校舎の図書館や多目的スペースの活用計画を作成し、各教室の電子黒板等を有効に活用して、分かりやすく思考が深まる多様な学習展開を工夫し、児童の意欲を高めます。

⑪ 日常的な運動継続による体力向上

1日2回の「活き活きトレーニング」や休み時間終了前5分間の「マラソントime」、始業前の外遊び、週2回の体操朝礼を意図的・計画的に教師も一緒に行うとともに、体育の授業の指導内容改善・充実を図り、更に人工芝の校庭や第二運動場を十分に活用して体力向上を図ります。

⑫ 縦割り活動の取り組みによる思いやりと豊かな心の醸成

全学年が参加する自然学校や学年別に参加する自然教室等の縦割り活動を通して、高学年は低学年への優しさとリーダーとしての責任感を育み、低学年は高学年から、リーダーとしてあるべき姿の頼もしさと自分が果たすべき役割を学びます。このように、学年を越えた関わりの中で豊かな心を醸成します。児童が人との関わりの中で「優しくされると 優しくなれる」と実感し、「人っていいな」と思える人格の基礎となる部分を形成していきます。

⑬ アフタースクールとの連携

アフタースクールのスタッフと更に連携を深め、放課後における児童一人ひとりの生活・学習を知り、児童への理解を深めます。

⑭ 自然学校における自然体験の充実

これまで尾瀬自然学校・富士自然学校と隔年で実施してきた自然学校に、2019年度から千葉県・富浦を導入し、3ヵ所展開とします。児童に、海浜植物・海浜生物に触れさせる体験を積み重ねます。（湿原・樹海・海浜と、3ヵ所の異なる環境の自然体験を積むこととなります）積んできた自然体験を学力伸長につなげます。

## 4 当該年度の研究活動計画

① 自分の考えをもち広げ深める力の育成：「考えの形成」を促す指導法の工夫

～「学ぶこと・考えることを楽しむ」

本校独自の年間指導計画・単元ごとの評価規準の充実と活用～

- 国際社会における今、自分の考えを明確にもつことは、今後強く求められていく力であると考えます。低学年では「自分の考えをもつこと」、中学年は「自分の考えをもつとともに他者の意見を受入れること」、高学年では「他者の意見を受入れることで自分の意見を深めること」を、発達段階に応じて進めます。

- 教員の授業力向上に向け、「学ぶこと・考えることを楽しむ！」を主題に校内研究を充実させます。そのため、校内研究会並びに学びのウイークを設定し、どの教員も研究授業を通してお互いの授業を見合い、講師から指導を仰ぐことで、実践的な力を高めます。
- 本校で押さえる「授業づくり」の3つの構成要素
  - ・自主的・主体的な学びの展開
  - ・共同的な学びの展開
  - ・課題解決型の学びの展開
- 「考えの形成を促す授業スタイル」の提案
  - ・複数で解決していく課題の設定
  - ・共同的な学びを意識した机の配置スタイル
  - ・児童が話し合う場面の設定
  - ・児童が中心の教師の立ち位置
  - ・課題設定の工夫
- 研究の焦点となるもの
  - ・問いの焦点化
  - ・思考の可視化

## ② 外部研修への積極的な参加と成果の共有・還元

全教員が、年3回の私学連合研究会（全国大会を含む）と個別課題研修に必ず参加し、研修成果をまとめて共有し、実践につなげていきます。

## ③ 日常的な教材の研究と準備

全教員は、週ごとの指導計画記入と教材準備について、管理職の指導を受けて、日常的に授業改善を重ねていきます。

## 5 当該年度の学習者支援事業計画

### ① 系統的なキャリア教育

個に応じたきめ細かな進路指導のために、1年生から6年生までの系統性を明確にしたキャリア教育計画を活用して、全教育活動を通して指導を進めます。

### ② 個に応じた補習活動

4年生から6年生は、更に具体的に中学校選択への支援ができるように、児童・保護者への調査を行うとともに、面談を通じてニーズを正確に把握します。それに基づいて、補習計画を立てるとともに、指導内容や方法を改善・充実させます。

### ③ 適切な進路指導

全教員が、2校以上の中学校の説明会等へ参加して、情報の収集や共有を行っています。更に中学校受験への具体方策を提案できるようにします。

### ④ 一人ひとりの「夢に向かう進路指導：進路指導部を中心とした指導体制」

付属中学校も含めた中学受験指導は、一人ひとりの将来の夢を実現するための第一歩とし、

進路指導部を中心に子ども・保護者との丁寧な面談を重ね、指導に向かいます。

## 6 当該年度の保護者連携事業計画・地域連携事業計画

### ① 保護者参画による行事等

運動会、伝統芸能体験教室、持久走大会等において、これまでも父母の会からの支援を受けていますが、なお一層互いの担当者間の連携を密にして、内容の充実を図ります。父母の会主催の文教まつりやバザーも、児童にとって、更に心に残るものにします。

### ② 年間を通じた保護者による参観や面談

児童の日常的な活動から、学校生活の状況を正確に知ってもらうためにも、保護者の行事参加や授業参観を定期的に行います。授業参観や教育懇談会は各学期1回ずつ計6回、学校公開(3日間連続)1回、面談を年間3回実施し、充実した連携を育みます。

### ③ 地域連携強化による防災

防災対策、緊急時対応を万全にするために、地域防災会議への参加や関係部署との連携を引き続き密に行います。更に最良の判断で最善が尽くせる組織体制を整えます。

### ④ 協力・支援を生かす同窓会

同窓会は、月に1回本校で役員会を開いて連携をしています。キャリア教育や児童募集等への参画を更に強めていただくように協力を求めます。

## 7 校舎施設設備の改善計画

### ① ICT教育環境の整備

児童一人一台のパソコン導入に伴い、校舎内の無線LAN環境を更に整備します。ICT機器を文房具の一つとして使える人材育成を目指し、ICT教育を推進します。

## 8 入試制度、募集強化計画

### ① 広報活動の充実と応募者増への戦略

幼稚園・保育園・幼児教室等へ年間複数回訪問することで、本校の教育方針や進路指導等、幼児保護者に更に深く理解いただき、知名度を高めていきます。また、積極的に受験冊子や教育誌等への広告掲載等、広報活動を工夫し、多くの保護者に本校の良さ・魅力を知っていただくとともに「選ばれる学校」を目指します。

### ② 学校説明会の充実

幼児体験教室や模擬試験等、幼児保護者のニーズを踏まえ、年間5回の説明会の内容を回ごとに工夫し、充実したものにします。状況に応じて、オンライン配信による説明会も工夫し、より多くの方に、より幅広い手段によって告知していきます。

### ③ 学校外説明会の充実

幼児教室（外部業者）主催の本校単独学校説明会は、多くの保護者に本校を理解していただくうえで効果的であったため、2022年度も引き続き実施します。このような学校外説明会を広報として有効に活用し、本校の良さを広めていきます。

## 9 その他

### ① 「人間愛」あふれる文教っ子 大切な八か条

児童一人ひとりがポジティブな思考で各自の学びを成立させ、学級の仲間とともに深め発展させることができるよう、「学ぶための姿勢」を明確にしていきます。

「豊かな人間性」とともに、「学ぶ楽しさ」「学びの発見や友達との共感、わかった・できたという実感、もっと探究したいという意欲」を育てていきます。

【第一条】 大きな声であいさつ・返事ができること。

【第二条】 背中をまっすぐ伸ばして、いい姿勢で過ごせること。

【第三条】 素直な気持ち、謙虚さをもって人に接すること。

【第四条】 人のせいではなく、自分で責任がもてること。

【第五条】 めんどいなことを後回しにしないこと。

【第六条】 提出物、宿題について、ちゃんとやれること。

【第七条】 困っている友達に進んで声をかけることができること。

【第八条】 整理整頓、片付けがしっかりできること。

### ② 文教っ子スタンダード

建学の精神「人間愛」に基づく本校の教育方針や教訓、服装・持ち物、その他の保護者と共通理解したいこと等を記した「文教っ子スタンダード」を作成し配布することにより、教育活動における一定の理解のもと家庭と児童の品位を保持します。

### ③ 防災意識の向上

本校では、様々な設定において行う避難訓練を大切にしています。9月の防災の日に近いところで「防災の日」を設定し、どのような災害においても「自助・共助・公助」の精神で、生命を守っていけるよう、防災意識を今後も高めていきます。

- ・「トイレがない！どうする？」…災害用トイレ・携帯トイレの作り方
- ・「自分でできるかな？怪我の手当て」…骨折の応急処置・三角巾の使い方
- ・「何を入れたらいい？非常持ち出し袋」…非常持ち出し袋の必要性
- ・「ペットボトルのキャップが大変身」…シャワーの作り方
- ・「消火器使えるかな？」…消火器の使い方実践
- ・「食べてみよう！非常食」…備蓄食品を実際に試食
- ・「水が出ない！歯みがきができない！」…口内衛生・歯みがきができないとき  
唾液を出すマッサージ
- ・「意外と使えるラップ」…包帯代わりや皿代わり・耳栓やヒモ活用等  
上記のような体験を積むことで「生き抜く」意識を学ばせていきます。

#### ④ 「PC BOOK」の活用と情報モラルの徹底

一人一台のPCの導入により、授業や日常の取り組みの中で、今までできなかったことができるようになったり、児童のPCスキルが向上したり、効果的な面は様々にあります。一方で、「便利」と「危険」はとにより合わせであり、逆の側面である「SNSの危険性」や「情報モラル」については、学校と家庭とが連携し、責任をもって教育していく重要性があると考えます。そこで「文教大学附属小学校 PC BOOK」を作成し、児童・家庭・学校がこの冊子を通して連携しながら、PC使用について「見える化」していきます。

## (5) 文教大学附属幼稚園

### 1 文教大学附属幼稚園のポリシー

#### ○ 文教大学附属幼稚園の理念 「人間愛」

幼稚園では、幼児教育を後の人間形成の土台づくりの場と捉えています。建学の精神である「人間愛」を基盤とし、個々の園児に応じた指導を工夫し、それぞれの個性の伸長に力をそそぎ、のびのびとした教育を推進しています。

#### ○ 文教大学附属幼稚園の教育のコンセプト 「“学ぶ、をあそぼう。”の実施」

幼稚園では、教育の中心に「遊び」を位置付けています。“学ぶ、をあそぼう。”のコンセプトのもと、「遊び」を通して「意欲」「見出す力」「実行力」等、真の学ぶ力の素となる力を始め、生きる力の土台となる様々な力が身につくよう「遊び」を工夫しています。

#### ○ 文教大学附属幼稚園の指導方針 「“文教スタイル”で子どもを伸ばす」

幼稚園では、豊かな自然と触れ合い、多くの人と関わり、遊びを始めとする多様な体験を通して、生きる力の基礎となる「意欲」「態度」「心情」等を育てています。

「認める・見守る・ともに楽しむ」という“文教スタイル”を基本にした指導で教育活動を展開し、子どもたちが秘めている可能性を十分に引き出せるよう努力しています。

### 2 当該年度の教育目標

学園建学の精神「人間愛」のもと、「素直で明るい元気な子ども」を教育目標として掲げ、教職員一丸となって子ども達を育みます。

- ① 元気に挨拶ができ、正しい生活習慣を身につけた子ども
- ② 慈愛・感謝の気持ちや思いやりの心を持ち、感じたことを素直に表現できる子ども
- ③ 自分の役割を果たすとともに、自分のことは自分でやろうと努力する子ども
- ④ 好奇心が旺盛で、自ら積極的に行動できる子ども

### 3 当該年度の教育活動計画

- ① 「認める・見守る・ともに楽しむ」という“文教スタイル”を教職員と保護者が共有し在園児・保護者と共に取り組める環境づくりに努めます。
- ② 様々な「遊び」の中で、組織的かつ計画的に教育課程を実践し、“学ぶ、をあそぼう。”を更に具現化していきます。
- ③ 「遊び」「運動」「行事」「生活」等の活動を工夫し、生きる力の土台を広げる教育を推進します。
- ④ コロナ禍の影響により園行事が制限された中であっても、楽しく体験できるように尽力し、様々な工夫を凝らして教育活動をします。

### 4 当該年度の研究活動計画

- ① 幼稚園教育要領に則したカリキュラム作りを継続します。
- ② 教員の指導力と資質の向上を目指し、品川区私立幼稚園協会や東京都私立幼稚園連合会主催



の研修会に積極的に参加して指導内容・方法について、全学年で共有を図ります。また、教員勉強会を実施して、地域ニーズの把握と対応策についても検討します。

- ③ 少子化と共働き家庭の増加に対する幼稚園の将来展望の検討を行い、品川区における少子化や保育園の現状分析と、働く女性の増加への対応策等の現状分析を行います。
- ④ コロナ禍においては、Web を利用した園内研修会・講演会等を積極的に利用して、研究活動の一助とします。

## 5 当該年度の学習者支援事業計画

- ① 本園が示す「目標とする力」と幼稚園教育要領で示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の関連性を吟味し、卒園時にそれらの力が身につくよう計画的に教育活動を実践します。

目標とする力：「遊び」を通して身につく生きる力の素

【触れ合い遊び】コミュニケーション能力 好奇心 想像力

【運動遊び】体力 バランス感覚 敏捷性 集中力 根気 協力 ルール 健康意識の向上

【学び遊び】協調性 思考力 想像力 創造力 語彙力 表現力 興味・関心

【生活遊び】健康意識の向上 コミュニケーション能力 ルール・マナー 自立心 聞く力 話す力

【自然遊び】好奇心 探究心 感性

- ② 「遊び」を通して、「意欲」「見出す力」「実行力」等、真の学ぶ力の素となる力を育てます。
- ③ 附属小学校の説明会や園児の体験学習について、附属小学校と附属幼稚園の教員同士連携強化を図りながら「求められる児童」に関する情報を保護者に提供することで、附属小学校に入学希望する保護者を支援します。
- ④ 公立小学校スタートプログラムの共通理解と、公立小学校との連携内容の確認、幼稚園から情報提供等の検討を行い、公立小学校に入学希望する保護者を支援します。
- ⑤ 進学希望者の動向を早期に把握し、附属小学校を始めとする私立及び国公立小学校への進学を視野に「文教幼児教室(課外活動として実施している外部業者による学習支援プログラム)」との連携を深めます。また、幼稚園教育要領にある、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を身に付けられるよう支援します。

<参考>

～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿～

- ① 健康な心と体 ② 自立心 ③ 協同性 ④ 道徳性・規範意識の芽生え ⑤ 社会生活との関わり
- ⑥ 思考力の芽生え ⑦ 自然との関わり・生命尊重 ⑧ 数量や図形、標識や文字等への関心・感覚 ⑨ 言葉による伝え合い ⑩ 豊かな感性と表現

## 6 当該年度の保護者連携事業計画・地域連携事業計画

保護者との連携強化・地域に根差した幼稚園の確立を目指し、園児の成長を保護者と共に楽しむ活動や環境を創造します。

- ① 幼稚園が「求める家庭・保護者」の明確化を行うため、入園前の幼稚園説明会・入園説明会での詳細説明や、ホームページによるわかりやすい教育方針・教育目標・教育内容を紹介し

ます。

- ② 保護者との連携強化の取り組みとして、父母の会やおやじの会（父母の会の諸事業支援部として組織された在園児の父親の有志の会）との連携を密にして諸行事を円滑に実施するとともに、幼稚園だより、各学年カリキュラムの発信により、保護者との情報共有を図ります。
- ③ 幼稚園説明会・入園説明会で実施したアンケート結果や、保護者アンケートを利用し、地域や家庭のニーズの把握とそれに応える方策を検討します。
- ④ 近隣在住の未就園児（2歳児未満）を対象として、幼稚園の園庭を開放する「ぶんぶん広場」を継続します。園庭開放・子育て相談等の実施によって、来園した保護者同士の交流の場として、広く地域に根ざした幼稚園の確立を目指します。

## 7 校舎施設設備の改善計画

- ① 園舎の施設設備が順調に機能しているかどうか、常に安全確認を行い、有効活用に努めます。
- ② 安全で安心した幼稚園生活が送れるよう、園児の目線に立った整備を進めます。

## 8 入試制度、募集強化計画

安定した入園者の確保を目指します。

- ① プレスクールに参加する親子が安心して楽しめる工夫や、登録方法・実施方法の検討を行い、志願者増につながるプレスクールを実施します。
- ② 2歳未満の幼児を対象とした幼稚園の園庭を開放する「ぶんぶん広場」を充実させ、プレスクールにつながる活動を行います。
- ③ 幼稚園で実施する見学会・説明会・相談会では、保護者のニーズとのミスマッチを防ぐため、幼稚園の「求める家庭・保護者」を分かりやすく説明できるように、プロジェクター映像を多用する等工夫します。また、共働き世帯の増加を考慮し、実施日についても、土曜日等参加しやすい日程を設定し、志願につながる内容の検討を行います。また、外部業者が実施する説明会にも積極的に参加します。
- ④ 保護者にとって知りたいことがすぐにわかるホームページの構築を心がけ、アクセス回数・閲覧回数を増やす工夫や、入園から卒園まで幼稚園がイメージできる映像・画像の製作を行い、募集力強化に努めます。
- ⑤ 入園希望者にとって知りたいことが一目でわかる幼稚園案内を製作します。また、幼児情報誌等への広告掲載や広報関連グッズを作成し、知名度UPを図ります。

## 9 その他

満足度が高い選ばれる幼稚園を目標と定め、募集・広報、教育、研究、園児生活、進路支援、保護者・地域連携について満遍なく実行し、多種多様な保護者のニーズに応えられるよう努めて参ります。

## (6) その他の施設（八ヶ岳寮）

### 1 当該年度の主な事業計画

---

学園が設置している学校の学生・生徒・児童・園児・教職員に対して、自然教室を体感できる教育環境を整備し、引き続き運営していきます。

## (7) 2022 年度の特別な事業

2022 年度に実施する主な特別事業は、次のとおりです。

| ①学園全体                  |  |
|------------------------|--|
| 主な事業内容                 |  |
| ・ リスク管理対応体制の強化         |  |
| ・ 寄附金事業の推進             |  |
| ・ 戦略的広報活動の展開（学生募集広報強化） |  |
| ・ 校友活動の推進              |  |

| ②大 学       |   |
|------------|---|
| 大学全体       | ・ 全国入試成績優秀者に対する特待生制度の実施<br>・ 海外日本語教育インターン派遣プログラム助成                      |
| 越谷キャンパス    | ・ 越谷キャンパス新棟建設工事（3/3）<br>・ 越谷キャンパス再開発計画                                  |
| 湘南キャンパス    | ・ 湘南キャンパス建物外壁調査及び改修工事<br>・ バスカード代替事業（バス通学定期券等購入代金補助）<br>・ スタジオ設備更新（4/5） |
| 東京あだちキャンパス | ・ キャリアイングリッシュ講座事業   |

| ③付属学校      |                                     |
|------------|-------------------------------------|
| 附属中学校・高等学校 | ・ 特待生の入学金免除、授業料給付金                  |
| 附属小学校      | ・ プロジェクタ更新工事<br>・ コンピュータシステム保守（5/5） |

※主な事業内容の括弧内は、複数年計画の何年目かを表したものです。（例（1/2）⇒2年計画の1年目）

## 4. 当該年度予算の概要

### (1) 2022 年度予算基本方針

- ① 越谷キャンパス新棟建設工事に伴う必要な経費を織り込むこと。
- ② 「学園経営戦略『BUNKYO ACTION PLAN 2025』」に基づく事業については、実施計画の策定状況に応じて、必要な経費については、極力、予算に反映すること。
- ③ 業務効率化と合理化を絶えず念頭に置くこと。

### (2) 予算科目等の概要

#### 1 学校法人会計の概要

学校法人の目的は、学校を運営して教育・研究を遂行することにあります。教育活動は人材の育成を目的とし、研究活動はその成果を学内に留めることなく、社会に還元することを目的とします。

学校法人は、このような特性を踏まえ、永続的に教育研究活動を行えるよう必要な校地、校舎等の基本財産の維持や長期にわたって収入と支出の均衡の状況について確認できるよう、学校法人会計基準に基づき、次の3つの財務諸表を主体として会計処理を行っています。

| 財務諸表       | 説明  |
|------------|---|
| ①資金収支計算書   | 当該会計年度に行った教育研究等の諸活動に対応する全ての資金の収入及び支出の内容と、支払資金（現金及びいつでも引き出すことができる預貯金）の収入及び支出の顛末を明らかにするものです。これらを「教育活動による資金収支」「施設整備等活動による資金収支」「その他の活動による資金収支」の3つに区分けした活動区分資金収支計算書を合わせて作成することにより、活動区分ごとの資金の流れが分かります。<br>(予算科目の説明：【収入の部】及び【支出の部】)  |
| ②事業活動収支計算書 | 当該会計年度の事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにし、事業活動収支の均衡状態が保たれているかどうかを示すもので、学校法人の負債とならない収入と、借入金返済及び施設・設備購入等の資本的支出に充てる額を除いた支出を計上します。これによって、経営状態が健全であるかどうかを判断することができます。また、「教育活動収支」「教育活動外収支」「特別収支」の3つの区分に分けることで、経常的（教育活動及び教育活動外収支）・臨時的（特別収支）な収支バランスの状況を的確に把握することができます。<br>(予算科目の説明：【事業活動収入の部】及び【事業活動支出の部】) |
| ③貸借対照表     | 一定時点（3月末現在）における資産、負債及び純資産（基本金、繰越収支差額）の内容と残高を示し、学校法人としての財政状況（ストック）を明らかにするものです。   |

## 2 予算科目（大科目）の説明

### ①資金収支計算書

#### 【収入の部】

| 科目          | 説明                                       |
|-------------|--|
| 学生生徒等納付金収入  | 授業料、入学金、教育充実費（維持管理費）等、学生生徒等が納入する学費       |
| 手数料収入       | 主に入学検定料等の受験料                             |
| 寄付金収入       | 個人や企業からの金銭による寄付金                         |
| 補助金収入       | 教育や研究に対しての国や地方公共団体からの助成金                 |
| 資産売却収入      | 主に保有する有価証券の満期償還や資産を売却したことで得る収入           |
| 付随事業・収益事業収入 | 公開講座の受講料や外部機関からの受託研究資金                   |
| 受取利息・配当金収入  | 主に預金、債券等を運用して得た利息又は配当金                   |
| 雑収入         | 退職金財団等からの交付金や前年度以前に計上した収入又は支出の修正による資金収入等 |
| 借入金等収入      | 日本私立学校振興・共済事業団又は銀行等からの借入金                |
| 前受金収入       | 主に新入生の入学手続き時に受け取る学納金                     |
| その他の収入      | 当年度に入金される「前期末未収入金収入」等                    |

#### 【支出の部】

| 科目       | 説明                                     |
|----------|--|
| 人件費支出    | 教職員の給与及び退職金並びに日本私立学校振興・共済事業団、退職金財団等の掛金 |
| 教育研究経費支出 | 教育研究、奨学金及び学生生活を支援するために要する費用            |
| 管理経費支出   | 学生の募集活動や事務管理費等の教育に直接関係のない費用            |
| 借入金等利息支出 | 借入金に伴う利息                               |
| 借入金等返済支出 | 借入金元本部分の返済                             |
| 施設関係支出   | 土地、建物、構築物等の固定資産取得のための支出                |
| 設備関係支出   | 機器備品、図書、車両等の固定資産取得のための支出               |
| 資産運用支出   | 将来の固定資産を取得するための準備金や特定事業目的のための基金等への繰入支出 |
| その他の支出   | 当年度に支払われる「前期末未払金支払支出」等                 |

②事業活動収支計算書（※事業活動収支計算書特有の科目を掲載）

【事業活動収入の部】

| 科目     | 説明                            | 区分         |
|--------|-------------------------------|------------|
| 寄付金    | 資金収支計算書の寄付金に加え、現物寄付を計上        | 教育活動<br>特別 |
| 資産売却差額 | 保有していた資産の額（取得価格）以上で売却したときの差額分 | 特別         |

【事業活動支出の部】

| 科目                      | 説明  | 区分   |
|-------------------------|---|------|
| 人件費<br>(退職給与引当金<br>繰入額) | 資金収支計算書では人件費支出の中に退職金支出が含まれていますが、事業活動収支計算書では教職員人件費の他に退職給与引当金繰入額という科目があります。これは当該年度末に在職する教職員全員の退職金から、一定額を引当金として確保するため、前年度末の引当金計上額との差額（不足額）を追加的に繰り入れるものです。  | 教育活動 |
| 教育研究経費<br>(減価償却額)       | 資金収支計算書に掲載されている科目以外に、減価償却額が計上されています。減価償却とは、時間の経過により老朽化することで価値が減少する固定資産（校舎・機器備品）について、資産としての価値を減少させるための手続をいいます。実際に資金を伴う支出がある訳ではありませんが、取得した建物等の資産を活用して教育・研究を行っている実態から、使用期間に応じて取得価額を合理的に配分して毎年費用化します。 | 教育活動 |
| 管理経費<br>(減価償却額)         |   |      |
| 資産処分差額                  | 保有していた資産の額（帳簿価額）を下回って売却したときの差額分   | 特別   |

|                   |  |   |
|-------------------|--|---|
| 基本金組入前当年度<br>収支差額 | 事業活動収入と事業活動支出の差額で、基本金組入額控除前の金額。これにより、基本金組入前の純粋な収支を把握することができ、単年度における収支バランスを確認することができます。   | — |
| 基本金組入額合計          | 学校法人の諸活動に必要な資産を継続的に維持するために事業活動収支差額から組入れるもので、土地や建物等の施設関係資産の取得額（第1号基本金）、奨学基金への繰入額（第3号基本金）、1ヶ月分の運転資金相当額（第4号基本金）等で構成されます。このうち、基本金組入対象となるのは、自己資金で賄った相当額となります。 | — |
| 当年度収支差額           | 基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額合計を控除した後の差額。収支差額がプラスであれば、資本的支出（基本金組入額）と経費支出の全てが事業活動収入で賄われたこととなります。この収支差額の累計が翌年度繰越収支差額です。  | — |

### (3) 2022 年度予算総括表

#### 1 資金収支予算総括表

##### 【収入の部】

(単位：円)

| 科 目         | 2022 年度予算      | 2021 年度補正予算    | 増減 (△)       |
|-------------|----------------|----------------|--------------|
| 学生生徒等納付金収入  | 10,469,846,000 | 10,708,801,000 | △238,955,000 |
| 手数料収入       | 389,877,000    | 448,164,000    | △58,287,000  |
| 寄付金収入       | 21,793,000     | 30,132,000     | △8,339,000   |
| 補助金収入       | 1,465,983,000  | 1,362,188,000  | 103,795,000  |
| 資産売却収入      | 79,376,000     | 79,376,000     | -            |
| 付随事業・収益事業収入 | 133,729,000    | 136,716,000    | △2,987,000   |
| 受取利息・配当金収入  | 12,625,000     | 14,298,000     | △1,673,000   |
| 雑収入         | 217,563,000    | 324,395,000    | △106,832,000 |
| 借入金等収入      | 250,000        | 250,000        | -            |
| その他の収入      | 100,455,000    | 26,605,000     | 73,850,000   |
| 収入の部合計      | 12,891,497,000 | 13,130,925,000 | △239,428,000 |

##### 【支出の部】

(単位：円)

| 科 目      | 2022 年度予算      | 2021 年度補正予算    | 増減 (△)         |
|----------|----------------|----------------|----------------|
| 人件費支出    | 7,400,386,000  | 7,743,796,000  | △343,410,000   |
| 教育研究経費支出 | 3,416,848,000  | 3,293,921,000  | 122,927,000    |
| 管理経費支出   | 914,439,000    | 907,820,000    | 6,619,000      |
| 借入金等利息支出 | 9,885,000      | 10,226,000     | △341,000       |
| 借入金等返済支出 | 400,000,000    | 400,000,000    | -              |
| 施設関係支出   | 441,030,000    | 1,279,300,000  | △838,270,000   |
| 設備関係支出   | 327,087,000    | 771,254,000    | △444,167,000   |
| 資産運用支出   | 84,482,000     | 90,347,000     | △5,865,000     |
| その他の支出   | 2,040,000      | -              | 2,040,000      |
| 予備費支出    | 50,000,000     | 50,000,000     | -              |
| 支出の部合計   | 13,046,197,000 | 14,546,664,000 | △1,500,467,000 |



2 事業活動収支予算総括表

(単位：円)

|               |          | 科 目            | 2022 年度予算      | 2021 年度補正予算    | 増減 (△)       |
|---------------|----------|----------------|----------------|----------------|--------------|
| 教育活動収支        | 事業活動収入の部 | 学生生徒等納付金       | 10,469,846,000 | 10,708,801,000 | △238,955,000 |
|               |          | 手数料            | 389,877,000    | 448,164,000    | △58,287,000  |
|               |          | 寄付金            | 21,793,000     | 19,132,000     | 2,661,000    |
|               |          | 経常費等補助金        | 1,465,983,000  | 1,361,649,000  | 104,334,000  |
|               |          | 付随事業収入         | 133,729,000    | 136,716,000    | △2,987,000   |
|               |          | 雑収入            | 217,563,000    | 324,395,000    | △106,832,000 |
|               |          | 教育活動収入 計       | 12,698,791,000 | 12,998,857,000 | △300,066,000 |
|               | 事業活動支出の部 | 人件費            | 7,463,318,000  | 7,725,612,000  | △262,294,000 |
|               |          | 教育研究経費         | 4,752,972,000  | 4,600,641,000  | 152,331,000  |
|               |          | 管理経費           | 1,060,193,000  | 1,056,105,000  | 4,088,000    |
|               |          | 徴収不能額等         | 500,000        | 500,000        | -            |
|               |          | 教育活動支出 計       | 13,276,983,000 | 13,382,858,000 | △105,875,000 |
|               | 教育活動収支差額 | △578,192,000   | △384,001,000   | △194,191,000   |              |
| 教育活動外収支       | 事業活動収入の部 | 受取利息・配当金       | 12,625,000     | 10,728,000     | 1,897,000    |
|               |          | その他の教育活動外収入    | -              | -              | -            |
|               |          |                | 教育活動外収入 計      | 12,625,000     | 10,728,000   |
|               | 事業活動支出の部 | 借入金等利息         | 9,885,000      | 10,226,000     | △341,000     |
|               |          | 借入手数料          | -              | -              | -            |
|               |          | その他の教育活動外支出    | -              | -              | -            |
|               |          |                | 教育活動外支出 計      | 9,885,000      | 10,226,000   |
|               |          | 教育活動外収支差額      | 2,740,000      | 502,000        | 2,238,000    |
| 経常収支差額        |          | △575,452,000   | △383,499,000   | △191,953,000   |              |
| 特別収支          | 事業活動収入の部 | 資産売却差額         | -              | -              | -            |
|               |          | その他の特別収入       | 18,929,000     | 20,083,000     | △1,154,000   |
|               |          |                | 特別収入 計         | 18,929,000     | 20,083,000   |
|               | 事業活動支出の部 | 資産処分差額         | 40,329,000     | 25,791,000     | 14,538,000   |
|               |          | その他の特別支出       | -              | -              | -            |
|               |          |                | 特別支出 計         | 40,329,000     | 25,791,000   |
|               |          | 特別収支差額         | △21,400,000    | △5,708,000     | △15,692,000  |
| 〔予 備 費〕       |          | 50,000,000     | 50,000,000     | -              |              |
| 基本金組入前当年度収支差額 |          | △646,852,000   | △439,207,000   | △207,645,000   |              |
| 基本金組入額合計      |          | △919,155,000   | △2,036,305,000 | 1,117,150,000  |              |
| 当年度収支差額       |          | △1,566,007,000 | △2,475,512,000 | 909,505,000    |              |

以上